

(様式第10)

厚生労働大臣

殿

久大病(管)番

26号

令和 7年 10月

2日

開設者名 学校法人久留米大学

理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
電話(0942) 31 — 7602

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	<input type="radio"/> 3循環器内科
	<input type="radio"/> 7内分泌内科
	<input type="radio"/> 8代謝内科
	<input type="radio"/> 11リウマチ科

診療実績

循環器内科は心臓・血管内科、血液内科は血液・腫瘍内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科(院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科(院内診療科)、整形外科で診療を行っている。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="radio"/>	1呼吸器外科	<input type="radio"/>	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	<input type="radio"/>	6心臓血管外科		7内分泌外科	<input type="radio"/>	8小児外科
診療実績							
乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科(院内診療科)で診療を行っている。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/>	1精神科	<input type="radio"/>	2小児科	<input type="radio"/>	3整形外科	<input type="radio"/>	4脳神経外科
<input type="radio"/>	5皮膚科	<input type="radio"/>	6泌尿器科		7産婦人科	<input type="radio"/>	8産科
<input type="radio"/>	9婦人科	<input type="radio"/>	10眼科	<input type="radio"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/>	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	<input type="radio"/>	15麻酔科	<input type="radio"/>	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科						有
歯科と組み合わせた診療科名						
<input type="radio"/>	1小児歯科	<input type="radio"/>	2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外科	
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	美容外科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53	0	0	0	965	1,018

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	519	6	520
歯科医師	12	0	12
薬剤師	72	0	72
保健師	0	0	0
助産師	47	1	47.8
看護師	990	39	1018.1
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	16	1	16.6

職種	員数
看護補助者	77
理学療法士	25
作業療法士	11
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	57

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	85
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	29
その他の技術員	68
事務職員	134
その他の職員	51

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	57	眼科専門医	11
外科専門医	53	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	15	放射線科専門医	18
小児科専門医	31	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	21	救急科専門医	17
合計			299

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (野村 政壽) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

令和2年4月～ 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	785.7 人	15.1 人	800.8 人
1日当たり平均外来患者数	1795.7 人	73.8 人	1869.5 人
1日当たり平均調剤数		1153.8 剤	
必要医師数		186.625 人	

必要歯科医師数	6	人
必要薬剤師数	15	人
必要(准)看護師数	457	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	495.12 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	18 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	483.43 m ²	病床数	41	床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積		79.8		m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	468.78 m ²	鉄筋コンクリート(主な設備)			※別紙1の通り	
細菌検査室	198.36 m ²	鉄筋コンクリート(主な設備)			※別紙1の通り	
病理検査室	274.10 m ²	鉄筋コンクリート(主な設備)			※別紙1の通り	
病理解剖室	56.53 m ²	鉄筋コンクリート(主な設備)			※別紙1の通り	
研究室	26,018.13 m ²	鉄筋コンクリート(主な設備)			※別紙1の通り	
講義室	1,588.2 m ²	鉄筋コンクリート 室数	16 室	収容定員	1,247	人
図書室	2838.18 m ²	鉄筋コンクリート 室数	6 室	蔵書数	195,327	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95.2 %	逆紹介率	73.8 %
算出 根拠	A:紹介患者の数		19,652 人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,199 人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		1,244 人
	D:初診の患者の数		21,949 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
原 幸治	産業医科大学病院	○	医療安全管理の識見のある医師	無	1

手島 康徳	産業医科大学病院		医療安全管理の識見のある看護師	無	1
豊嶋 健輔	産業医科大学病院		医療安全管理の識見のある薬剤師	無	1
高橋 一久	産業医科大学病院		医療安全管理の識見のある臨床工学技士	無	1
小川 節子			医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページで公表	

主 な 設 備

様式10 別紙①

		機 器
化学検査室	生化学	グルコース ADAMS Glucose GA1172(2台) グリコヘモグロビン ADAMS A1c HA-8182 (2台) 臨床化学自動分析装置 LABOSPECT 008 α (2機) 自動浸透圧測定装置OSMO STATION OM-6060 呼気中13CO2分析装置 (POCone ピロリ検査) ABL90 FLEX (2台) 血ガス 自動分析装置 Dimension EXL200 赤血球沈降速度測定装置 Quick eye-8 SESR-2001-08
	免疫	自動化学発光酵素免疫分析装置 Accuraseed 全自动蛍光免疫測定装置ミュータスワロー i30 エンドトキシン、 β -グルカン測定装置トキシノメーター MT-6500、拡張モジュール2台 全自动臨床検査システム STACIA カテコールアミン分析計 HLC-725CAⅢ 全自动化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400 全自动化学発光免疫測定装置 Alinity i 全自动電気泳動分析装置 Epalyzer 2 Junior コバス8000 e 801 (2台)
	血液	XN9100 (CBC)
	一般	小型便潜血分析装置 QUICK RUN (Ⅱ) 全自动尿分析装置 US-3500 全自动尿中有形成分分析装置 UF-5000
	凝固	全自动免疫測定装置HISCL-5000 血液凝固自動分析装置S400CF (2台)
	輸血	全自动輸血検査装置 ビジョンマックス
	輸血	全自动輸血検査装置 ビジョン
細菌検査室	細菌検査	DxM 1096 マイクロスキャン WalkAway (2台) 遺伝子解析装置 コバス6800可動式×1式 遺伝子解析装置 コバスTaqMan 48×1式 自動細菌同定感受性装置 VITEK 2 Compact 血液培養自動分析装置 BACTEC FX40 血液培養自動分析装置 BACTEC FX(2台) 質量分析装置MALDI Biotyper smart 遺伝子解析装置Verigeneシステム 遺伝子解析装置 GeneXpertシステム 遺伝子解析装置コバス z 480 遺伝子解析装置コバスLiat Ion Torrent Genexusシステム
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置 (VIP6AI-J0) 自動特殊染色装置 (Ventana NX-SS System) 自動免疫染色装置 (Ventana BenchMark ULTRA PLUS) QuantStudio® 5 リアルタイムPCRシステム 自動HE染色装置 (Ventana HE600) 組織切片自動作製装置 (ティシュー・テック スマートセクション SS-QAI)
病理解剖室		解剖台 カメラ、モニター

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
難治性の造血器腫瘍および造血不全に対する根治治療としての造血細胞移植 自家移植3件 同種移植13件			
医療技術名	胸腔鏡下弁形成術、弁置換術	取扱患者数	45
当該医療技術の概要			
胸腔鏡下弁形成術、弁置換術は、従来、胸部正中切開で行われていた心臓弁膜症手術を、胸腔鏡下に右肋間からの小切開で行う低侵襲手術で、近年、急速普及している。診療報酬請求には厳格な施設基準を求められる高度医療である。			
医療技術名	Sutureless生体弁(Perceval)による大動脈弁置換術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
Sutureless生体弁は大動脈弁置換術を施行する際に自己弁輪と人工弁の縫合を必要とせず、手術時間の短縮に貢献できる新たな手術手技である。その使用は胸腔鏡下弁置換術を診療報酬請求が可能な施設のみに限定されている高度医療である。			
医療技術名	BRCA1/2検査	取扱患者数	83
当該医療技術の概要			
乳癌、卵巣癌、膵臓癌、前立腺癌の患者に、検査前後の遺伝カウンセリングを実施し提供した。			
医療技術名	遺伝カウンセリング加算	取扱患者数	76
当該医療技術の概要			
BRCA1/2検査を含む保険適応の遺伝学的検査の結果開示の際に請求した。			
医療技術名	遺伝性腫瘍カウンセリング加算	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
遺伝子パネル検査で二次的所見を認めた症例に対して、遺伝カウンセリングを実施した。			
医療技術名	遺伝学的検査	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
遺伝性疾患疑いの患者および確定診断された患者の血縁者へのシングルサイト検査を実施した。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)	取扱患者数	65
当該医療技術の概要			
重症大動脈弁狭窄症に対して、開胸を行わずにカテーテルを用いて低侵襲に大動脈弁位に生体弁を留置する方法。心臓外科、麻酔科とチームを形成し、導入には施設基準が設けられており、適切な施設でのみ施行可能である。			
医療技術名	心房中隔欠損症および卵円孔開存症に対するカテーテル的閉鎖術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
心房中隔欠損症(ASD)と卵円孔開存症(PFO)に対してカテーテルによる孔閉鎖を行う方法。低侵襲で短時間の治療が可能となった。小児循環器とのチームを形成し、施設基準を有する。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
心不全を有する僧帽弁閉鎖不全症に対して、開胸を行わずにカテーテルを用いて低侵襲に僧帽弁の修復術(クリッピング術)を行う方法。心臓外科、麻酔科とチームを形成し、施設基準が設けられており適切な施設でのみ施行可能である。			
医療技術名	カテーテルアブレーション治療(高周波アブレーション)	取扱患者数	257
当該医療技術の概要			
頻拍性不整脈、期外収縮などに対して、高周波を用いた心筋焼灼を行う方法。 最近はカルトシステムを用いることで、心臓内を3D可視化することが可能となり、焼灼率の向上に寄与している。			

医療技術名	心房細動に対する冷凍(クライオ)アブレーション	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
心房細動に対して、肺静脈に冷凍バルーンを挿入して、1回で組織凝固を行う方法。手技時間の短縮と正常組織への侵襲が少ない。施設基準を要する。			
医療技術名	心房細動に対するレーザーバルーンアブレーション	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
心房細動に対して、肺静脈にレーザーバルーンを挿入して、その中から内視鏡で直接焼灼部位を観察できる。そのため造影剤使用がなく、焼灼部位の内膜損傷も少ない。施設基準を有する。			
医療技術名	心房細動に対するパルスフィールドアブレーション	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
心房細動に対して肺静脈に治療用電極カテーテルを挿入し高電圧パルス電流を流すことでカテーテル接地面の局所細胞死を引き起こす。心筋選択性が高いこと、熱を用いないエネルギー源であることから食道や横隔神経障害、静脈狭窄といった合併症リスクは従来のモダリティと比較し極めて低い。施設基準を要する。			
医療技術名	対外式膜型人工肺(ECMO)を用いた心肺補助法	取扱患者数	23
当該医療技術の概要			
致死的不整脈や45分以内の心停止症例に対して、カテーテル的に大腿動脈からそれぞれ人工肺とポンプ用のシースを挿入し、心肺補助を行う方法。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)を用いた心肺補助法	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
左心不全を優位とした重症心不全や心原性ショックに対して、カテーテル的に大腿動脈から小型ポンプを挿入し、心肺補助を行う方法。上記A-V ECMOと併用することが多く、更なる救命率の向上が得られている。施設基準を要する。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	38
当該医療技術の概要			
限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術に比較してda Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	27
当該医療技術の概要			
診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	33
当該医療技術の概要			
腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、特に腹腔鏡下腎部分切除術では高度な技術が必要であり、術後の腎機能に影響を与える阻血時間(腫瘍切除のために腎動脈を遮断する時間)が延長される。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術では困難であった切除・縫合が正確かつ迅速に行えるため阻血時間が短縮され、術後の合併症も軽減される。また腹腔鏡手術では困難であった位置や大きさの腫瘍も切除可能となり、手術適応が拡大すると考えられている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている高解像度の3D画像を見ながら、人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット鉗子を用いて手術を行うことで、精密な切開が可能となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎孟形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている。腹腔鏡手術では腎孟の形成時の縫合は極めて難しく、習得するまでの長期間を要し、結果的に手術時間も長くなる傾向があったがロボット手術支援手術で、10倍以上に拡大した視野で、自由度の高い鉗子により細かい正確な縫合が可能となっている。			
医療技術名	ロボット支援膀胱全摘除術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている高解像度の3D画像を見ながら、人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット鉗子を用いて手術を行うことで、精密な切開が可能となっている。			

医療技術名	重症頭部外傷後の脳浮腫に対する新たなバルビツレート療法	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-down infusion投与法を用いて血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	脳内出血患者に対する積極的短時間降圧による血腫増大予防療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
脳内出血急性期患者において、造影CT遅延相における造影剤漏出所見であるleakage signが陽性であった場合に、通常よりも強力な降圧を短時間行い、降圧に伴う副作用や合併症を避けて血腫の増大を予防する治療。神経症状の悪化や緊急手術のリスクを減らす。			
医療技術名	正中部巨大頭蓋底腫瘍に対する開頭・経鼻同時手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
傍鞍部や脳幹腹側の腫瘍では、経鼻内視鏡手術が有用な反面、分葉状で外側進展や血管の巻き込みを伴う腫瘍では開頭手術に劣る。開頭と経鼻手術を同時にを行うことでお互いの死角や操作性を担保し合い、摘出度を上げ、かつ合併症の発生を予防できる。			
医療技術名	再発脳腫瘍における癌遺伝子パネル検査に基づく個別化治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
悪性脳腫瘍においては術後標準治療が行われても再発することが多く、再発時には個々の遺伝子異常にに基づいた適切な分子標的治療薬の導入により治療効果が期待できる可能性がある。腫瘍組織から癌遺伝子パネル診断を行い、結果に基づいて適切な治療を選択する。			
医療技術名	心肺停止症例に対するeCPR	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
搬入時心肺停止症例のうち、発症状況・時間経過等を考慮の上(心臓・脳機能の回復見込みがある場合)、体外循環式の人工心肺装置を用いた心肺蘇生法を行う技術である。循環確立後、速やかに原因に対する精査・治療、引き続く体温管理療法痙攣に対する治療など集中治療を行う。			
医療技術名	心肺停止患者・重症頭部外傷患者に対する体温管理療法	取扱患者数	24
当該医療技術の概要			
心肺停止蘇生後の患者や重症頭部外傷患者に対する、社会復帰を目指すための脳指向型集中治療である。蘇生直後より高体温を回避し、急性期の積極的体温調整を行うことにより、脳を含む全身の臓器障害の進行防止、積極的な脳波モニタリングや痙攣抑制による脳保護を行う技術。			
医療技術名	重症外傷患者に対する戦略的アプローチと集中治療	取扱患者数	68
当該医療技術の概要			
重症外傷患者の最大の死因は、制御困難な出血と重症頭部外傷である。これらに対し受傷直後の止血戦略と異型輸血を含む緊急輸血戦略、さらに重症頭部外傷に対する脳保護を考慮した集中治療を行い重症外傷例の救命と社会復帰を目指すチーム医療技術。			
医療技術名	産科的危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療	取扱患者数	40
当該医療技術の概要			
前置胎盤や子宮出血等の分娩後危機的出血に対し、産科医と救急医が積極的に連携し、産科的処置とともに大動脈内バルーン閉塞(REBOA)や経カテーテル動脈塞栓術(TAE)、大量輸血プロトコールに基づく緊急輸血などを施行し、機的出血から蘇生する技術。			
医療技術名	重症頭部外傷に対する新バルビツレート療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-down infusion投与法を用いて血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。2015年に当院では施設基準を満たしている。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	33
当該医療技術の概要			
経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery:TEES)は、耳下手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを搭載した内視鏡と精細で高解像度な細経内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			

医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。			
また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。			
これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に声帯内に脂肪を注射する。術後に嗄声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			
医療技術名	喉頭形成手術(人工形成材料装置術)	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
甲状軟骨を切開し人工材料を挿入する甲状軟骨形成術と、披裂軟骨を糸で牽引することで声帯を内転する披裂軟骨内転術があり、いずれも発声機能を回復させる手術である。			
医療者の高度の技術を要し、なかでも甲状軟骨形成術II型は施設基準が設けられている。			
医療技術名	誤嚥防止手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
喉頭と気管を分離する術式、喉頭を閉鎖あるいは摘出する術式があり、いずれも重度嚥下障害による嚥下性肺炎を防止することができる。医療者の高度な解剖学的知識と、技術習得が必要である。			
医療技術名	人工内耳埋込手術およびハビリテーション	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
高度難聴者に対して人工内耳植込手術を行い、術後リハビリテーションを行うことで聴覚を取り戻すことができる。			
医療技術名	硬性内視鏡を用いた咽喉頭癌の経口的レーザー切除術(TLM)	取扱患者数	68
当該医療技術の概要			
咽頭喉頭の癌を含めた腫瘍性病変に対し、頸部外切開を加えない経口的切除を行っている。			
また、切除デバイスにCO2レーザーを用い、電気メスよりも熱侵襲の少ない低侵襲手術を行っている。			
医療技術名	頭頸部がんに対する分子標的治療(セツキシマブ)、免疫療法(ニボルマブ・ペムブロリズマブ)	取扱患者数	39
当該医療技術の概要			
頭頸部癌に対する新しい分子標的治療薬やチェックポイント阻害剤を単独または化学療法と組み合わせることで頭頸部癌に対する患者さんの生存期間延長に寄与している。			
医療技術名	磁気式ナビゲーション下鼻副鼻腔手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要			
磁気式ナビゲーションを用いた高精度の安全性の高い内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っている。			
医療技術名	アルミノックス	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
楽天メディカルが開発した技術基盤で、「薬剤(抗体+光感受性色素)+光照射」の2段階でがんなどを治療する光免疫療法(photoimmunotherapy)			
医療技術名	腹腔鏡下拡張胆管切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
内視鏡外科技術認定医が先天性の胆道拡張症に対して、開腹を行わずに低侵襲に拡張胆管を切除する方法。			
医療技術名	新生児における左肺上葉切除	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
新生児の先天性肺気道奇形に対し、開胸下で病変部を摘出する手術。			

医療技術名	腎悪性腫瘍手術(腎全摘)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
腎臓の悪性腫瘍に対して腎臓を全摘出する手術。			
医療技術名	腹腔鏡下鎖肛根治術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
内視鏡外科技術認定医が先天性の胆道拡張症に対して、開腹を行わずに低侵襲に拡張胆管を切除する方法。			
医療技術名	新生児消化管穿孔手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
新生児の回腸穿孔に対して行う手術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	47
取扱い患者数の合計(人)	1232

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	11	56	特発性血小板減少性紫斑病	190
2	筋萎縮性側索硬化症	41	57	血栓性血小板減少性紫斑病	1
3	脊髄性筋萎縮症	23	58	原発性免疫不全症候群	22
4	原発性側索硬化症	3	59	IgA腎症	251
5	進行性核上性麻痺	25	60	多発性嚢胞腎	120
6	パーキンソン病	397	61	黄色靭帯骨化症	129
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	後縦靭帯骨化症	338
8	ハンチントン病	2	63	広範脊柱管狭窄症	7
9	神経有棘赤血球症	0	64	特発性大腿骨頭壊死症	11
10	シャルコー・マリー・トゥース病	11	65	下垂体性TSH分泌亢進症	3
11	重症筋無力症	225	66	クッシング病	24
12	先天性筋無力症候群	2	67	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	49
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	117	68	甲状腺ホルモン不応症	2
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／ 多巣性運動ニューロパシー	36	69	アジソン病	8
15	封入体筋炎	6	70	サルコイドーシス	310
16	多系統萎縮症	18	71	特発性間質性肺炎	154
17	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	67	72	肺動脈性肺高血圧症	182
18	ライソゾーム病	44	73	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
19	副腎白質ジストロフィー	3	74	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	43
20	ミトコンドリア病	14	75	リンパ脈管筋腫症	14
21	もやもや病	106	76	網膜色素変性症	64
22	ブリオン病	2	77	バット・キアリ症候群	1
23	HTLV-1関連脊髄症	27	78	特発性門脈圧亢進症	8
24	特発性基底核石灰化症	2	79	原発性胆汁性胆管炎	231
25	全身性アミロイドーシス	39	80	原発性硬化性胆管炎	19
26	遠位型ミオパシー	3	81	自己免疫性肝炎	158
27	神経線維腫症	79	82	クローン病	241
28	天疱瘡	112	83	潰瘍性大腸炎	590
29	表皮水疱症	10	84	好酸球性消化管疾患	2
30	膿疱性乾癬(汎発型)	22	85	慢性特発性偽性腸閉塞症	4
31	スティーヴンス・ジョンソン症候群	11	86	腸管神経節細胞僅少症	1
32	中毒性表皮壊死症	5	87	チャージ症候群	9
33	高安動脈炎	33	88	クリオビリン関連周期熱症候群	2
34	巨細胞性動脈炎	29	89	若年性特発性関節炎	50
35	結節性多発動脈炎	22	90	非典型溶血性尿毒症症候群	1
36	顕微鏡的多発血管炎	100	91	ブラウ症候群	8
37	多発血管炎性肉芽腫症	99	92	先天性ミオパシー	9
38	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	62	93	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
39	悪性関節リウマチ	30	94	筋ジストロフィー	29
40	バージャー病	29	95	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1
41	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	96	脊髄空洞症	50
42	全身性エリテマトーデス	579	97	脊髄髓膜瘤	30
43	皮膚筋炎／多発性筋炎	318	98	遺伝性ジストニア	1
44	全身性強皮症	155	99	脳表ヘモジデリン沈着症	1
45	混合性結合組織病	72	100	前頭側頭葉変性症	5
46	シェーグレン症候群	621	101	ピッカースタッフ脳幹脳炎	3
47	成人発症スチル病	31	102	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
48	再発性多発軟骨炎	15	103	先天性無痛無汗症	1
49	ベーチェット病	175	104	先天性核上性球麻痺	1
50	特発性拡張型心筋症	145	105	メビウス症候群	1
51	肥大型心筋症	233	106	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	2
52	拘束型心筋症	2	107	アイカルディ症候群	1
53	再生不良性貧血	115	108	片側巨脳症	1
54	自己免疫性溶血性貧血	56	109	先天性大脳白質形成不全症	4
55	発作性夜間ヘモグロビン尿症	11	110	ドラベ症候群	4

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
111	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	5	166	アルポート症候群
112	ミオクロニ一欠神てんかん	3	167	急速進行性糸球体腎炎
113	ミオクロニ一脱力発作を伴うてんかん	6	168	抗糸球体基底膜腎炎
114	レノックス・ガストー症候群	42	169	一次性ネフローゼ症候群
115	ウエスト症候群	38	170	紫斑病性腎炎
116	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	171	間質性膀胱炎(ハンナ型)
117	ラスムッセン脳炎	3	172	オスラー病
118	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	2	173	閉塞性細気管支炎
119	ランドウ・クレフナー症候群	1	174	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)
120	レット症候群	11	175	肺胞低換気症候群
121	スタージ・ウェーバー症候群	6	176	副甲状腺機能低下症
122	結節性硬化症	39	177	偽性副甲状腺機能低下症
123	色素性乾皮症	2	178	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症
124	先天性魚鱗癬	10	179	フェニルケトン尿症
125	家族性良性慢性天疱瘡	5	180	メープルシロップ尿症
126	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	203	181	プロピオン酸血症
127	特発性後天性全身性無汗症	10	182	メチルマロン酸血症
128	眼皮膚白皮症	6	183	イソ吉草酸血症
129	弾性線維性仮性黄色腫	10	184	グルコーストランスポーター1欠損症
130	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	47	185	グルタル酸血症2型
131	エーラス・ダンロス症候群	5	186	尿素サイクル異常症
132	メンケス病	1	187	ポルフィリン症
133	オクシピタル・ホーン症候群	1	188	肝型糖原病
134	ウィルソン病	28	189	原発性高カリコロニクロン血症
135	低ホスファターゼ症	3	190	脳膜黄色腫症
136	ジュベール症候群関連疾患	2	191	脂肪萎縮症
137	ウィリアムズ症候群	6	192	家族性地中海熱
138	ATR-X症候群	1	193	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群
139	クルーゾン症候群	3	194	慢性再発性多発性骨髓炎
140	アペール症候群	3	195	強直性脊椎炎
141	ファイファー症候群	2	196	進行性骨化性線維異形成症
142	アントレー・ビクスラー症候群	1	197	肋骨異常を伴う先天性側弯症
143	コフィン・シリス症候群	1	198	骨形成不全症
144	歌舞伎症候群	5	199	軟骨無形成症
145	多脾症候群	4	200	リンパ管腫症/ゴーハム病
146	無脾症候群	5	201	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)
147	ウェルナー症候群	1	202	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病)
148	コケイン症候群	2	203	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群
149	プラダー・ウイリ症候群	12	204	先天性赤血球形成異常性貧血
150	ソトス症候群	2	205	ダイアモンド・ブラックファン貧血
151	ヌーナン症候群	15	206	ファンコニ貧血
152	ヤング・シンプソン症候群	1	207	クロンカイト・カナダ症候群
153	4p欠失症候群	1	208	非特異性多発性小腸潰瘍症
154	5p欠失症候群	7	209	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)
155	アンジェルマン症候群	5	210	総排泄腔外反症
156	22q11.2欠失症候群	9	211	総排泄腔遺残
157	修正大血管転位症	9	212	先天性横隔膜ヘルニア
158	完全大血管転位症	21	213	胆道閉鎖症
159	単心室症	25	214	アラジール症候群
160	左心低形成症候群	3	215	IgG4関連疾患
161	三尖弁閉鎖症	8	216	黄斑ジストロフィー
162	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	217	レーベル遺伝性視神経症
163	ファロー四徴症	86	218	遅発性内リンパ水腫
164	両大血管右室起始症	34	219	好酸球性副鼻腔炎
165	エプスタイン病	8	220	進行性白質脳症

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	236
合計患者数(人)	9,799

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	摂食障害入院医療管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	栄養サポートチーム加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	医療安全対策加算1
歯科外来診療感染対策加算4	感染対策向上加算1
歯科診療特別対応連携加算	感染対策向上加算1 指導強化加算(注2)
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)(東10階病棟)	感染対策向上加算1 抗菌薬適正使用体制加算(注5)
特定機能病院入院基本料 入院栄養管理体制加算(注11)(東10階病棟)	患者サポート体制充実加算
特定機能病院入院基本料	重症患者初期支援充実加算
救急医療管理加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
超急性期脳卒中加算	ハイリスク妊娠管理加算
診療録管理体制加算3	ハイリスク分娩管理加算
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
急性期看護補助体制加算(25:1)(看護補助者5割以上)	術後疼痛管理チーム加算
急性期看護補助体制加算 注2に掲げる夜間100対1 急性期看護補助体制加算	後発医薬品使用体制加算1
急性期看護補助体制加算 注3に掲げる夜間看護体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
急性期看護補助体制加算 注4に掲げる看護補助体制充実加算	データ提出加算
急性期看護補助体制加算 注4に規定する看護補助体制充実加算1	入退院支援加算1
看護職員夜間配置加算12対1配置加算1	入退院支援加算1に伴う入院時支援加算(注7)
療養環境加算	入退院支援加算3
重症者等療養環境特別加算	認知症ケア加算1
無菌治療室管理加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算2	精神疾患診療体制加算
緩和ケア診療加算	精神科急性期医師配置加算2のロ
精神科身体合併症管理加算	地域医療体制確保加算
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料1
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	救命救急入院料1 早期栄養介入管理加算(注9)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
看護職員待遇改善評価料	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
入院ベースアップ評価料	連携充実加算
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	がん治療連携計画策定料
ウイルス疾患指導料の注2	ハイリスク妊娠婦連携指導料1
外来栄養食事指導料の注2	ハイリスク妊娠婦連携指導料2
外来栄養食事指導料の注3	肝炎インターフェロン治療計画料
高度難聴指導管理料	薬剤管理指導料
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
糖尿病合併症管理料	医療機器安全管理料1
がん性疼痛緩和指導管理料	医療機器安全管理料2
がん患者指導管理料イ	医療機器安全管理料(歯科)
がん患者指導管理料ロ	精神科退院時共同指導料
がん患者指導管理料ハ	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
がん患者指導管理料ニ	歯科治療時医療管理料
外来緩和ケア管理料	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	在宅患者歯科治療時医療管理料
糖尿病透析予防指導管理料	救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
小児運動器疾患指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
腎代替療法指導管理料	在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
一般不妊治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	遺伝学的検査
外来腫瘍化学療法診療料1	遺伝学的検査の注2に規定する施設基準

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
染色体検査の注2に規定する基準	CT透視下気管支鏡検査加算
骨髄微小残存病変量測定	経気管支凍結生検法
BRCA1/2遺伝子検査	有床義歯咀嚼機能検査2 有床義歯咀嚼機能検査2 口咬合圧測定のみを行う場合
がんゲノムプロファイリング検査	咬合圧検査
先天性代謝異常症検査	精密触覚機能検査
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	画像診断管理加算4
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
検体検査管理加算(I)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
検体検査管理加算(IV)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
国際標準検査管理加算	CT撮影及びMRI撮影
遺伝カウンセリング加算	冠動脈CT撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	外傷全身CT加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	心臓MRI撮影加算
胎児心エコー法	乳房MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	小児鎮静下MRI撮影加算
人工腎臓 1 慢性維持透析を行った場合1	頭部MRI撮影加算
人工腎臓 口 導入期加算2(注2)	全身MRI撮影加算
人工膵臓検査	肝エラストグラフィ加算
長期継続頭蓋内脳波検査	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
脳波検査判断料1	外来化学療法加算1
神経学的検査	無菌製剤処理料
補聴器適合検査	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
ロービジョン検査判断料	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
小児食物アレルギー負荷検査	運動器リハビリテーション料(I)
内服・点滴誘発試験	呼吸器リハビリテーション料(I)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
がん患者リハビリテーション料	緊急穿頭血腫除去術
歯科口腔リハビリテーション料2	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
経頭蓋磁気刺激療法	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術その他のもの 注2)
通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
精神科作業療法	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
認知療法・認知行動療法1	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	舌下神経電気刺激装置植込術
医療保護入院等診療料	角結膜悪性腫瘍切除手術
エタノールの局所注入(甲状腺)	角膜移植術(内皮移植加算)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	羊膜移植術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
ストーマ合併症加算	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
手術用顕微鏡加算	緑内障手術(濾過泡再建術(needle 法))
口腔粘膜処置	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
CAD/CAM冠	網膜再建術
歯科技工加算	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
自家脂肪注入	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
処理骨再建加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
椎間板内酵素注入療法	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用具を用いたもの)	胸腔鏡下弁置換術
上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	経皮的中隔心筋焼灼術
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助療法(ポンプカテーテルを用いたもの)
気管支バルブ留置術	補助人工心臓
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的下肢動脈形成術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経カテーテル大動脈弁置換術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除を伴うもの)
胸腔鏡下弁形成術	胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
体外衝撃波胆石破碎術	腹腔鏡下子宫悪性腫瘍手術(子宫体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	胎児胸腔・羊水腔シャント術(一連につき)
腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	体外式膜型人工肺管理料
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
生体部分肝移植術	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巢癌症候群の患者に対して行うものに限る)
腹腔鏡下脾腫瘍摘出術	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巢癌症候群の患者に対して行うものに限る)
腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術	輸血管管理料 I
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	輸血適正使用加算
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下腎孟形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
同種死体腎移植術	歯根端切除手術の注3
生体腎移植術	レーザー機器加算
膀胱水圧拡張術	麻酔管理料(I)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	麻酔管理料(II)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	周術期薬剤管理加算
精巣内精子採取術	放射線治療管理料 放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	放射線治療管理料 外来放射線治療加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	高エネルギー放射線療法
腹腔鏡下子宫悪性腫瘍手術(子宫頸がんに限る。)	1回線量増加加算 全乳房照射
腹腔鏡下子宫悪性腫瘍手術(子宫体がんに限る。)	1回線量増加加算 前立腺照射
腹腔鏡下子宫瘢痕部修復術	強度変調放射線治療(IMRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
画像誘導放射線治療(IGRT)(体外照射の注4)	
体外照射 体外照射呼吸性移動対策加算	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他 のもの)	
画像誘導密封小線源治療加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断料 病理診断管理加算2	
悪性腫瘍病理組織標本加算	
口腔病理診断管理加算2	
クラウンブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とする ものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
入院時食事療養(Ⅰ)	
下肢創傷処置管理料	
顎関節人工関節全置換術(歯科)	
腹腔鏡下腟式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)	
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い るもの)	
単線維筋電図	
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの) に限る。)	
多血小板血漿処置	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年5回(久留米大学CPC)	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	3.7

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で印を付ける等)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績						
No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
1	抗MDA5抗体陽性の皮膚筋炎患者の肺障害の分子免疫学的解析	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
2	一次纖毛KIF7分子の関節炎への役割の検討と治療への応用	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
3	思春期・若年成人(AYA世代)患者におけるリウマチ医療体制に資する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	80,000	補委	免疫・アレルギー疾患政策研究事業(厚生労働科学研究費)
4	自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補委	難治性疾患政策研究事業(厚生労働科学研究費)
5	MEFV 遺伝子の網羅的なVUS 機能的アノテーションと新規Ex vivo assay を用いた患者細胞 機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びバイリンインフラマソーム活性化機構解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	650,000	補委	ゲノム創薬基盤推進研究事業(AMED)
6	好酸球表面抗原の役割と鼻茸合併重症ぜん息の寛解評価への臨床応用に関する研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
7	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	150,000	補委	循環器病・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(厚生労働科学研究費)
8	マスト細胞を介したIgG4関連疾患組織纖維化メカニズム解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
9	進展型小細胞肺癌に対する新たな治療開発を目指した研究	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	390,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
10	ぜん息患者のTr1細胞におけるIL-27制御性活性の解析	松岡 昌信	医療連携センター	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
11	COPDにおける好中球炎症機構に対する補体活性因子の同定とその役割の解明	木下 隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
12	補体抑制による皮膚筋炎に伴う間質性肺疾患の治療	財前 圭晃	呼吸器・神経・膠原病内科	2,470,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
13	気管支ぜん息における2型自然リンパ球とマクロファージに関連する新規病態の解明	徳永 佳尚	呼吸器・神経・膠原病内科	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
14	アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	260,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
15	成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立: 薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	910,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
16	効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞採取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究	長藤 宏司	内科学講座 血液・腫瘍 内科部門	150,000	補委	厚生労働科学研究費
17	大動脈弁狭窄症とアミロイドーシスの関係	朔 浩介	外科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
18	下肢閉塞性動脈疾患に対する血管新生治療薬の探索	外山 研介	外科	7,500,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED) 創薬支援推進事業・創薬総合支援事業
19	干渉波脳刺激法による脳卒中からの回復促進	吉田 史章	生理学(1)	1,450,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
20	光操作法によるニューロリハビリテーションの治療効果と脳・神経可塑性の研究	吉田 史章	生理学(1)	550,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
21	光操作法を用いた排尿機能機序解析と新規排尿コントロール手法の開発	吉田 史章	生理学(1)	920,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
22	Sprouty2 による上皮間葉転換制御を介した扁平上皮癌転移抑制機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
23	口腔癌の癌幹細胞と周囲微小環境とのクロストーク機構解析による新規治療戦略の確立	轟 圭太	歯科口腔医療センター	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
24	新規顎矯正手術が及ぼす顎関節構造および顎機能変化の解明	喜久田 翔伍	歯科口腔医療センター	3,770,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
25	代謝関連脂肪性肝疾患および肝がんの病態解明に関する研究	川口 巧	消化器内科	2,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)
26	肝臓と多臓器連関の包括的解明を基軸とした慢性肝疾患者の予後改善に資する研究	川口 巧	消化器内科	2,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに ○ 補 委	補助元又は委託元名
27	肝硬変症に対するリハビリテーション医療の確立、筋肉再生—肝臓修復機構の解析を通じた新たなバイオマーカーの探索	川口 巧	消化器内科	3,250,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)
28	運動による肝がん抑制分子メカニズムの解明:運動効果を模倣する治療法の開発	川口 巧	消化器内科	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業 (肝炎等克服緊急対策研究事業)
29	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	川口 巧	消化器内科	500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 研究開発推進ネットワーク事業
30	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質に向上等に関する研究	川口 巧	消化器内科	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費 補助金(肝炎等克服政策研究事業)
31	全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究	古賀 浩徳	消化器内科	1,000,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費 補助金(肝炎等克服政策研究事業)
32	レジスタンス運動誘発マイオカインによる肝発がん抑制効果の機序	川口 巧	消化器内科	1,950,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)基盤研究C
33	抗好中球細胞質抗体は潰瘍性大腸炎の病態にどのように関与するのか	竹田津 英稔	消化器内科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)基盤研究C
34	CD34陽性細胞を用いたNASHに対する肝再生治療の機序解明と血管幹細胞への影響	中村 徹	消化器内科	1,170,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)基盤研究C
35	NASH肝臓における血管内皮前駆細胞の抗酸化作用とその分子機構の解明	増田 篤高	消化器内科	1,950,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)若手研究
36	SGLT2阻害剤の肝癌微小環境への影響	中野 暖	消化器内科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)若手研究
37	腫瘍特異的microRNAを用いた膵癌および膵管内乳頭粘液性腺癌の診断バイオマーカー開発	阪上 尊彦	消化器内科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業 (科研費)若手研究
38	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	井出 達也	消化器内科	300,000	補 委	厚生労働行政推進調査事業費 補助金(肝炎等克服政策研究事業)
39	肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	井出 達也	消化器内科	600,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
40	ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	井出 達也	消化器内科	900,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
41	肝細胞癌のWnt5aを介した免疫回避機構の解明と複合免疫治療への応用	古賀 浩徳	消化器内科	2,080,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
42	ホーミングペプチド搭載型次世代抗膵がんペプチド医薬の技術開発	古賀 浩徳	消化器内科	3,250,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) スマートバイオ創薬等研究支援事業
43	B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム解析に関する研究と肝炎データストレージの活用法	矢野 博久	病理学(1)	3,000,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
44	子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊娠性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	津田尚武	産婦人科	585,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
45	AKI-toCKDにおけるBreg-IK-10系の動態解明と治療法の開発	深水 圭	腎臓内科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
46	腎臓病克服のためのアルドステロン・AGES-RAGE系双方を標的とした治療戦略の創出	田口 顕正	質量分析医学応用研究施設	2,480,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
47	AKI-toCKDtransitionの克服を目指した制御性B細胞移入療法の可能性	横田 祐之介	腎臓内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
48	慢性腎臓病においてCHF-PHD阻害が銅代謝へ与える影響と臓器障害との関連性	森山 智文	腎臓内科	1,016,700	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
49	ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキシマブの検証的医師主導治験の実施	深水 圭	腎臓内科	1,690,000	補委	AMED(名古屋大学 丸山彰一)
50	腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築	深水 圭	腎臓内科	400,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費 (川崎医科大学 柏原直樹)
51	腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病(CKD)対策の推進に資する研究	深水 圭	腎臓内科	450,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費 (埼玉医科大学 岡田 浩一)
52	GnRHシグナル制御による動脈硬化抑制作用の解明	永山 綾子	内分泌代謝内科	910,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
53	グルココルチコイド作用抑制因子による筋肉脂肪連関の調節と老化制御	蘆田 健二	内分泌代謝内科	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
54	プリンシグナル制御による代謝・炎症を標的とした多元的IFALD治療法の創出	蓮澤 奈央	内分泌代謝内科	65,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)分担

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
55	転写因子Ad4BPと男性ホルモン受容体によるグローバルな転写抑制が作りだす性差	諸橋 憲一郎	内分泌代謝内科	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
56	手術・集中治療に関連したPTSD治療法の開発	原 将人	麻酔科	260,865	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
57	HCN4をターゲットとした新たな心房細動の治療戦略の開発	大下 健輔	麻酔科	502,536	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
58	マウス脳スライスにおけるPLD2を介した麻酔作用のスライスパッチ法による解明	亀山 直光	麻酔科	618,820	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
59	大腸上皮細胞が慢性炎症から癌化する過程におけるCHI3L1核内移行の機序と役割り	溝口 恵美子	免疫学講座	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤C
60	ホジキンリンパ腫における免疫微小環境のデジタル空間プロファイリング	竹内 真衣	病理学(2)	910,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
61	T細胞リンパ腫の腫瘍周囲微小環境を中心とした二次元空間解析および臨床病理的検討	三好 寛明	病理学(2)	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
62	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験	三好 寛明	病理学(2)	1,950,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
63	中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第Ⅲ相試験	三好 寛明	病理学(2)	1,300,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
64	信頼できる悪性リンパ腫病理診断AIシステムの構築と実証	三好 寛明	病理学(2)	10,400,000	補委	戦略的創造研究推進事業(CREST事業)
65	CD37発現と網羅的リピドミクス解析による濾胞性リンパ腫増悪予測指標の開発	三好 寛明	病理学(2)	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
66	膠芽腫微小環境が形成する治療抵抗性の解明	古田 拓也	病理学(2)	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
67	膠芽腫医療に抜本的変革をもたらす血液バイオマーカーの分子基盤の構築	古田 拓也	病理学(2)	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(A)
68	細胞組織形態に基づく病型識別器の構築と悪性リンパ腫の異型性解析基盤の実現	三好 寛明	病理学(2)	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
69	成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立: 薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	三好 寛明	病理学(2)	910,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
70	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	三好 寛明	病理学(2)	1,299,826	補委	2024年度国立がん研究センター研究開発費
71	慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	三好 寛明	病理学(2)	150,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
72	子宮腔内照射による酸素濃度の変化が子宮頸癌の予後に与える影響	宮田 裕作	放射線科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
73	オーファンドラッグ開発基盤の構築	水落 建輝	小児科	8,000,000	補委	株式会社 久留米リサーチパーク
74	小児のウィルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究	水落 建輝	小児科	455,000	補委	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業(AMED)
75	希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	水落 建輝	小児科	200,000	補委	難治性疾患政策研究事業(厚生労働省)
76	乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不全症診断の効率化研究	西小森 隆太	小児科	780,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
77	MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びバイリンインフラマソーム活性化機構解明	西小森 隆太	小児科	650,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
78	インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立	西小森 隆太	小児科	325,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
79	網羅的ゲノム解析のデータ二次利用に基づく原発性免疫不全症の広域診断体制の構築に直結するエビデンス創出研究	西小森 隆太	小児科	1,300,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
80	自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	西小森 隆太	小児科	40,000,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
81	原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
82	細胞工学的手法によるエカルディ・グティール症候群の中枢神経系炎症の機序解明	西小森 隆太	小児科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
83	一次纖毛KIF7分子の関節炎への役割の検討と治療への応用	西小森 隆太	小児科	100,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
84	交感神経細胞の分化転換がレット症候群の脳心連関システム制御異常の原因か?	原 宗嗣	小児科	504,500	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
85	レット症候群とその周辺疾患の臨床調査研究	原 宗嗣	小児科	800,000	補委	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業
86	レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明 ~睡眠障害を改善できるか~	山下 大輔	小児科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(若手)
87	医療機関を受診する不登校児の背景因子の探索と医学的介入・出口戦略の検討について	山下 大輔	小児科	450,000	補委	森永奉仕会研究奨励金
88	Group B streptococcusが定着を持続するための病原因子に関する研究	屋宮 清仁	地域医学講座	2,860,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
89	睡眠ポリグラフデータバンクの拡充およびこれを活用した睡眠障害・精神神経疾患の病態解明と生理学的診断マーカー・治療法開発	小曾根 基裕	精神神経科	530,000	補委	精神・神経疾患研究開発費 (国立研究開発法人国立精神・神経医療センター)
90	CO中毒による高次脳機能障害患者に特徴的なバイオマーカーと包括的リハビリテーションアプローチ・支援モデルに関する研究	本岡 大道	精神神経科	300,000	補委	労災疾病臨床研究事業費補助金
91	生活習慣病等疾病予防と介護予防との一体的実施を可能にする通いの場のモデル構築	小路 純央	精神神経科	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
92	潜在的な児童虐待に対するイメージを基盤とした態度評価法の開発	大江 美佐里	精神神経科	400,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 特別研究員奨励費
93	複雑性トラウマに関する心理教育の多角的効果検証と均てん化に関する研究	大江 美佐里	精神神経科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
94	トラウマ関連障害への認知処理療法の有効性及び作用機序の検証と適用拡大	大江 美佐里	精神神経科	195,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
95	青少年の心的外傷後ストレス関連障害への認知処理療法の効果検証と導入プログラム開発	大江 美佐里	精神神経科	195,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
96	もの忘れ予防検診を通した聴覚障害に関する包括的研究と支援体制の構築	柳本 寛子	精神神経科	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
97	修正型電気けいれん療法が統合失調症の脳血流と脳由来神経栄養因に及ぼす影響について	佐藤 守	精神神経科	260,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
98	トラウマへの気づきを高める学校環境:教員の心理的障壁緩和に配慮したシステムの構築	千葉 比呂美	精神神経科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
99	ADHD患者の不眠症における動画を用いた新規治療法の開発	加藤 隆郎	精神神経科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
100	高齢者の運転安全性向上を目指した運転適性評価法の構築	児玉 英也	精神神経科	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
101	新型コロナウイルス感染症の心血管系合併症リスク層別化モデルの作成	加藤 倫子	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
102	血管形成術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症再燃を肺動脈の微小血管抵抗指数で予測する	佐々木 健一郎	循環器病センター	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
103	一般住民における血中オキシトシン値と認知機能維持や抑うつ状態緩和との関連	榎本 美佳	人間健康学部/心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
104	心肺蘇生術普及のためのKURUME MODELの構築~学童へのアプローチ~	大塚 麻樹	高度救命救急センター	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
105	虚血再灌流障害に対する心筋保護機構におけるIL-22結合タンパクの役割の解明	高橋 甚彌	心臓・血管内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
106	虚血心筋細胞生存の病態解明 線維芽細胞のJAK/STAT3/SOCS3経路の探求	岡部 浩太	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
107	梗塞後心筋リモデリングの病態におけるIL22結合蛋白の役割の解明	赤垣 大樹	心臓・血管内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
108	大動脈解離病態の統合的理解を目指して:細胞老化と液性免疫の役割	中尾 英智	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
109	動脈硬化および腸管の炎症と食の関連についての疫学的検討	深水 亜子	心臓・血管内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
110	大動脈解離における内皮バリア機能破綻の意義とFAKの役割解明	眞島 涼平	心臓・血管内科	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
111	大動脈解離における血管周囲脂肪組織の炎症制御メカニズム解明	大野 聰子	循環器病センター	2,470,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
112	血清Exosome内Angiotensinogen値は左室心筋重量と認知・運動機能に関連する	森川 楢	地域医療連携講座/心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
113	大動脈解離における嗅覚受容体の役割:化学物質センシングによる病態制御メカニズム	青木 浩樹	循環器病研究所/心臓・血管内科	4,810,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
114	アミロイドーシスに関する調査研究	田原 宣広	循環器病センター	200,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
115	患者レジストリJapan PH Registryを利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	田原 宣広	循環器病センター	650,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED) 臨床研究・治験推進研究事業
116	心不全予測を行う表情・音声の新規バイオマーカーに関する開発研究	光武 良亮	循環器病研究所/心臓・血管内科	702,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED) 医療機器等研究成果展開事業
117	急性大動脈解離に対する新規治療デバイスの開発	福本 義弘	心臓・血管内科	2,000,000	補委	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
118	中年期食事性のカルシウム摂取が認知機能、心血管病に与える影響、田丸研究より	野原 夢	心臓・血管内科	3,000,000	補委	公益財団法人ロッテ財団
119	一般住民における核酸代謝物質とフレイルとの関連性(宇久島コホート研究より)	森川 楢	地域医療連携講座/心臓・血管内科	200,000	補委	日本痛風・尿酸核酸学会
120	遠隔医療への応用を目指した身体計測変量と心血管病リスクの研究:Zinc- α -glycoprotein(ZAG)の交絡効果の検討	下山 茉世	心臓・血管内科	500,000	補委	小林孫兵衛記念医学振興財団
121	右室圧負荷モデルマウスの右室機能障害におけるIL-22 / IL-22BP系の役割～心臓のホメオスタシスを構築するサイトカインに役割の解明～	芝尾 昂大	心臓・血管内科	2,000,000	補委	久留米大学石橋学術振興基金助成金
122	心停止後自己心拍再開(ROSC)を得た患者において、入院時と翌朝のACTH-コルチゾール値の低下反応と生命予後との関連について	西木戸 文	心臓・血管内科	450,000	補委	久留米大学ライフイベントと研究活動両立支援金制度
123	トランスサイレチンアミロイドーシスに対するグラボノイドの効果	緒方 詔子	心臓・血管内科	500,000	補委	久留米大学木村登循環器学研究基金研究助成金

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
124	4D-flow mappingとFDG-PETを用いた肥大型心筋症の心室頻拍の発生及び治療効果の判定	森田 浩介	心臓・血管内科	500,000	補委	久留米大学木村登循環器学研究基金研究助成金
125	肺高血圧症における脳心連関の解明	久貝 忠大	心臓・血管内科	500,000	補委	久留米大学木村登循環器学研究基金研究助成金
126	腎細胞癌に対するがん複合免疫療法と真菌・ウイルスを含む腸内微生物叢に関する検討	植田 浩介	泌尿器科	2,730,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
127	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
128	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	平岡 弘二	整形外科	390,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業
129	変形性膝関節症に対するJAK阻害薬Peficitinibの効果	大園宏城	整形外科	2,579,216	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
130	腱板断裂後の回旋筋脂肪変性におけるマクロファージの機能解明	大園宏城	整形外科	1,400,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
131	CO中毒による高次脳機能障害患者に特徴的なバイオマーカーと包括的リハビリテーションアプローチ・支援モデルに関する研究	松瀬 博夫	リハビリテーション部	9,997,000	補委	労災疾病臨床研究事業費補助金
132	IL-6とオステオカルシンを介した筋骨連関に効果的な運動療法の開発	松瀬 博夫	リハビリテーション部	393,519	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
133	脂肪肝患者に対する運動によるがん予防のメカニズム解明:骨格筋エクソームの解明	橋田 竜騎	整形外科	2,140,870	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
134	ポストコロナ時代に適応した糖尿病網膜症の革新的診療システムの構築	吉田 茂生	眼科	1,820,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
135	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	吉田 茂生	眼科	910,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)研究開発推進ネットワーク事業
136	ケロイド発生に細胞内シグナルタンパクは関与するか?ノックアウトマウスを用いた解析	右田 尚	形成外科・顎顔面外科	910,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
137	感染が懸念される閉鎖創に適用可能な灌流つき陰圧デバイスの有効性に関する科学的検証	力丸 英明	形成外科・顎顔面外科	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○ 補委	補助元又は委託元名
138	無莢膜型インフルエンザ菌が侵襲性感染症を引き起こす病態に関する研究	後藤 憲志	感染制御科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
139	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	後藤 憲志	感染制御科	450,000	補委	厚生労働科学研究費(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業研究事業)
140	染色体不安定性における腫瘍免疫回避機構の解明	音琴 哲也	脳神経外科	500,000	補委	文部科研 若手研究(代表)
141	Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験に関する医師主導治験	中村 英夫	脳神経外科	1,000,000	補委	東京女子医大との共同研究(AMES補助事業)(分担)
142	Sympathetic overdrive仮説に基づく「くも膜下出血後再出血」の病態・脳保護薬の探求	森岡 基浩	脳神経外科	100,000	補委	文部科研 基盤研究C(分担)
143	レセプトデータで明らかにする日本的小児頭部外傷 CT撮像の検査理由	下川 尚子	脳神経外科	500,000	補委	第18回ふくおか「臨床医学研究賞」(代表)
144	包括的評価法による嚥下機能改善手術の効果予測と手術適応の標準化	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	520,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
145	頭頸部癌における免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子の探究	佐藤 文彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
146	組織幹細胞システムと幹細胞ニッチの制御による声帯の再生医療への展開	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
147	最新の電子顕微鏡技術による喉頭粘膜の三次元的微細組織構造からみた喉頭機能の解明	佐藤 公宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
148	Type2円証に着目した天疱瘡のMAPK非依存性デスマグレイン減少機序の解明	古賀 浩嗣	皮膚科	1,100,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
149	円形脱毛症の上皮一免疫微小環境(EIME)と免疫特権の破たんのループの伝播	加来 洋	皮膚科	800,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
150	新生児壊死性腸炎の死亡〇を目指した核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	古賀 義法	小児外科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
151	プリンシグナル制御による代謝・炎症を標的とした多元的IFALD治療法の創出	古賀 義法	小児外科	30,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに ○	補助元又は委託元名
152	核酸医薬品(DNAアプタマー)による糖尿病性腎症の新規治療法の開発	古賀 義法	小児外科	50,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
153	食道機能検査による小児消化器症状の病態の可視化と治療法の確立	升井 大介	小児外科	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
154	短腸症候群への経肛門的短鎖脂肪酸投与によるIFALD予防の可能性探索	橋詰 直樹	小児外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
155	AGE-RAGE系を標的とした骨粗鬆症の新規治療法の開発	外川内 亜美	小児外科	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
156	敗血症性急性腎障害に対する核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	倉八 朋宏	小児外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	頬田 章子	呼吸器・神経・膠原病内科	Altered Functional Connectivity during Mild Transient Respiratory Impairment Induced by a Resistive Load	J Clin Med. 2024 Apr 26;13(9):2556.	Original Article
2	村田 大樹	呼吸器・神経・膠原病内科	Characterization of pre- and on-treatment soluble immune mediators and the tumor microenvironment in NSCLC patients receiving PD-1/L1 inhibitor monotherapy.	Cancer Immunol, Immunother 2024 Sep 5;73:214.	Original Article
3	時任 高章	呼吸器・神経・膠原病内科	Epacadostat plus pembrolizumab versus placebo plus pembrolizumab as first-line treatment for metastatic non-small cell lung cancer with high levels of programmed death-ligand 1: a randomized, double-blind phase 2 study.	BMC Cancer. 2024 Jul 25;23(Suppl 1):1251.	Original Article
4	時任 高章	呼吸器・神経・膠原病内科	Single-arm multicenter phase II study on aggressive local consolidative therapy in combination with systemic chemotherapy for stage IV non-small cell lung carcinoma with oligometastases: CURE-OLIGO (TORG1529).	Radiat Oncol. 2025 Jan 4;20(1):2.	Original Article
5	津村 健二	呼吸器・神経・膠原病内科	The Impact of Adverse Events in Transbronchial Lung Cryobiopsy on Histopathological Diagnosis.	J Clin Med. 2025 Jan 23;14(3):731.	Original Article
6	村田 大樹	呼吸器・神経・膠原病内科	The Impacts of Active and Inactive Ghrelin on Cachexia and Immune Checkpoint Inhibitor Monotherapy in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer.	Chemotherapy 2025;10.1159/000543425: 1–7 Epub 2025 Jan 22.	Original Article
7	入江 研一	呼吸器・神経・膠原病内科	Dopaminergic neurodegeneration in Gerstmann–Sträussler–Scheinker (P102L) disease: insights from imaging and pathological examination.	Front Neurol. 2024 Sep 23;15:1452709.	Original Article
8	杉 鈴奈	呼吸器・神経・膠原病内科	Examination of prognostic factors in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis.	Mod Rheumatol. 2024 Aug 20;34(5):966–972.	Original Article
9	Saku K, Takagi K, Hirata M, et al.	外科	A Case of High-Risk Myelodysplastic Syndrome Revealed After Emergent Aortic Surgery	Cureus. 2024 Dec; 16(11):e74771	Case report
10	Onitsuka S, Tanaka A, Otsuka H, et al.	外科	General Information and Applications of Najuta Fenestrated Stent Grafts for Aortic Arch Aneurysms	J.Clin.Med.2024.Dec; 14(1):36	Review
11	Otsuka H, Tayama E, Uemura K, et al.	外科	Giant Pheochromocytoma Resection Using Partial Cardiopulmonary Bypass and Blood Purification Therapy	JCEM Case Rep. 2024 Oct; 2(11):luae202	Case report
12	Mitsuoka N, Takaseya T, Sasaki K, et al.	外科	Delayed migration of a Sapien 3 Ultra Resilia following transcatheter aortic valve implantation after selection of a smaller-sized valve	Oxford Medical Case Reports.2024.Jul; オンライン	Case report
13	Nakamura E, Takagi K, Otsuka H, et al.	外科	Coil Embolization for a New Ulcer-Like Projection Near the Distal Anastomosis After a Hemiaortic Arch Replacement	Cureus. 2024 Oct; 16(10):e71559	Case report
14	Mine H, Saku K, Takagi K, et al.	外科	Postoperative anticoagulation management using subcutaneous unfractionated heparin for a patient with nonbacterial thrombotic endocarditis: a case report	Journal of Surgical Case Reports: 2024.Apr; オンライン	Case report
15	Kono T, Takagi K, Takaseya T, et al.	外科	Early thrombus formation including hypo-attenuated leaflet thrombosis after surgical bioprosthetic aortic valve replacement	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2024 Sep; 72(9):568–576	Original Article
16	Kikuta S, Imai S, Nagae N, et al.	歯科口腔医療センター	Key determinants of immediate postoperative pain, nausea, and vomiting in orthognathic surgery: insights from a retrospective cohort study.	Cureus 16(10),2024 Oct	Original Article
17	Kikuta S, Abe Y, Hino K, et al	歯科口腔医療センター	What prognostic factors have impacted the efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with recurrent or metastatic oral cancer?	J Stomatol Oral Maxillofac Surg 125(4),2024 Sep	Original Article
18	Kikuta S, Matsuo K, Yushi A, et al	歯科口腔医療センター	Improvement of the temporomandibular joint symptoms due to the condylar position change following modified L-shaped intraoral vertico-sagittal ramus osteotomy: a single-center, retrospective study	Oral Maxillofac Surg 28 P.1365–1374,2024 Sep	Original Article
19	Iwanaga J, Fukino K, Kitagawa N, et al	歯科口腔医療センター	Newly revealed anatomy of the buccinator muscle: An anatomical and histological study	Ann Anat ,2024 Aug	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
20	Iwanaga J	歯科口腔医療センター	The alveolar canals and foramina in the first edition of Terminologia Oroanatomica: a preview	Anat Sci Int 38(1) P.10–19,2024 Sep	Review
21	K. Shinozaki, T. Kobayashi, N. Seki, et al	歯科口腔医療センター	Factors predicting neurosensory disturbance after bilateral sagittal split ramus osteotomy: a retrospective cohort study	Int. J. Oral Maxillofac. Surg 54(3) P.261–267,2025 Mar	Original Article
22	Iwanaga J, Takeshita Y, Anbalagan M, et al	歯科口腔医療センター	The greater palatine nerve and artery both supply the maxillary teeth: An anatomic and radiologic study	J Am Dent Assoc 156(2) P.151–159,2025 Feb	Original Article
23	Iwanaga J, Kim HJ, Akita K, et al	歯科口腔医療センター	Ethical Use of Cadaveric Images in Anatomical Textbooks, Atlases, and Journals: A Consensus Response From Authors and Editors	Clin Anat 38(2) P.222–225,2025 Mar	Others
24	Suzuki H, Iwamoto H, Tanaka T, et al.	消化器内科	Fibroblast growth factor inhibition by molecular-targeted agents mitigates immunosuppressive tissue microenvironment in hepatocellular carcinoma	Hepatology International. 2024 Apr; 18: 610–622	Original Article
25	Sano T, Amano K, Ide T, et al.	消化器内科	Metabolic management after sustained virologic response in elderly patients with hepatitis C virus: A multicenter study	Hepatology Research. 2024 Apr; 54: 326–335	Original Article
26	Nakamura T, Masuda A, Kako M, et al.	消化器内科	Hepatic arterial infusion of autologous CD34+ cells for hepatitis C virus-related decompensated cirrhosis: A multicenter, open-label, exploratory randomized controlled trial	Regenerative Therapy. 2024 May; 27: 455–463	Original Article
27	Sakaue T, Koga H, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Pancreatic Juice-Derived microRNA-4516 and microRNA-4674 as Novel Biomarkers for Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Gastro Hep Advances. 2024 May; 3: 761–772	Original Article
28	Tanaka T, Koga H, Suzuki H, et al.	消化器内科	Anti-PD-L1 antibodies promote cellular proliferation by activating the PD-L1-AXL signal relay in liver cancer cells	Hepatology International. 2024 Jun; 18: 984–997	Original Article
29	Nakane T, Fukunaga S, Nakano D, et al.	消化器内科	Impact of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease on the incidence of Helicobacter pylori-negative gastric cancer	Hepatology Research. 2024 Jun; 54: 540–550	Original Article
30	Tsutsumi T, Kawaguchi T, Fujii H, et al.	消化器内科	Hepatic inflammation and fibrosis are profiles related to mid-term mortality in biopsy-proven MASLD: A multicenter study in Japan	Alimentary Pharmacology & Therapeutics. 2024 Jun; 59: 1559–1570	Original Article
31	Shimose S, Saeki I, Tomonari T, et al.	消化器内科	Initial clinical experience with durvalumab plus tremelimumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma in real-world practice	Oncology Letters. 2024 Jun; 28: 397	Original Article
32	Nakano M, Kawaguchi M, Kawaguchi T, et al.	消化器内科	Profiles associated with significant hepatic fibrosis consisting of alanine aminotransferase >30 U/L, exercise habits, and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Hepatology Research. 2024 Jul; 54: 655–666	Original Article
33	Tanaka T, Suzuki H, Yamaguchi S, et al.	消化器内科	Efficacy of timing-dependent infusion of nivolumab in patients with advanced gastric cancer	Oncology Letters. 2024 Jul; 28: 463	Original Article
34	Masuda A, Nakamura T, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Ex-vivo expanded CD34+ cell transplantation alleviates fibrotic liver injury via innate immune modulation in metabolic dysfunction-associated steatohepatitis mice	Cytotherapy. 2024 Aug; 26: 899–909	Original Article
35	Kawaguchi T, Murotani K, Kajiyama H, et al.	消化器内科	Effects of luseogliflozin on suspected MASLD in patients with diabetes: a pooled meta-analysis of phase III clinical trials	Journal of Gastroenterology. 2024 Sep; 59: 836–848	Original Article
36	Moriyama E, Shimose S, Niizeki T, et al.	消化器内科	Efficacy of Atezolizumab Plus Bevacizumab-Transcatheter Arterial Chemoembolization Sequential Therapy for Patients with Intermediate-Stage Hepatocellular Carcinoma	Current Oncology. 2024 Sep; 31: 5821–5831	Original Article
37	Sakaue T, Dorayappan KDP, Zingarelli R, et al.	消化器内科	Obesity-induced extracellular vesicles proteins drive the endometrial cancer pathogenesis: therapeutic potential of HO-3867 and Metformin	Oncogene. 2024 Nov; 43: 3586–3597	Original Article
38	Kawaguchi T, Fujishima Y, Wakasugi D, et al.	消化器内科	Effects of SGLT2 inhibitors on the onset of esophageal varices and extrahepatic cancer in type 2 diabetic patients with suspected MASLD: a nationwide database study in Japan	Journal of Gastroenterology. 2024 Dec; 59: 1120–1132	Original Article
39	Mitsuhashi T, Ogasawara S, Nakayama M, et al	病理学講座	Gamma-glutamyl cyclotransferase, a molecule identified from the invasive front of follicular thyroid carcinoma, is useful for differential diagnosis of follicular thyroid tumors	Pathol Res Pract. 2024 Dec; 264:155678.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
40	Ryu T, Kurokawa Y, Hirayu N, et al	産婦人科	Resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta (REBOA): a novel approach for treating amniotic fluid embolism with disseminated intravascular coagulopathy. A report of two cases	J Obstet Gynaecol Res 2024 Jun; 50: 1722–7	Case report
41	Katsuda T, Nishio S, Tasaki S, et al	産婦人科	Olaparib maintenance therapy for platinum-sensitive relapsed ovarian cancer at a single institution: A retrospective study	J Obstet Gynaecol Res 2024 Jul; 50: 1192–1200	Original Article
42	Miyahara H, Kurokawa Y, Muto M, Takao Y, et al	産婦人科	Granulomatous mastitis during pregnancy with sudden onset of gait difficulty and erythema nodosum: A case report and review of the literature	J Obstet Gynaecol Res 2024 Oct; 50: 1985–9	Case report
43	Muto M, Horinouchi T, Kurokawa Y, et al	産婦人科	Superb microvascular imaging for assessment of post-cesarean myometrial blood flow from 1 to 4 weeks after operation: A preliminary study	J Clin Ultrasound 2025 Feb; 53: 242 – 7	Original Article
44	Nagayama A, Inokuchi T, Ashida K, et al.	内科学講座 内分泌代謝内科部門	Assessing the Metabolic and Physical Effects of Combined DPP4 and SGLT2 Inhibitor Therapy in Patients with Type-2 Diabetes Mellitus: An Observational Prospective Pilot Study.	JMA J. 2024 Jul;7(3):387–400.	Original Article
45	Iwata S, Ashida K, Demiya M, et al.	内科学講座 内分泌代謝内科部門	Preserved seasonal variation in glycemic control in patients with type 2 diabetes mellitus during COVID-19: a 3-year-long retrospective cohort study in older adults in Japan.	BMC Endocr Disord. 2024 May;24(1):70.	Original Article
46	Rikitake J, Ashida K, Nagayama A, et al.	内科学講座 内分泌代謝内科部門	Successful Superficial Blood Sampling to Localize a Fibroblast Growth Factor-23-Producing Tumor.	Am J Case Rep. 2024 Apr;25:e943152.	Case report
47	Harada N, Nakayama H, Nomura M	内科学講座 内分泌代謝内科部門	A Case of Fulminant Type 1 Diabetes with Transient Production of Anti-Glutamic Acid Decarboxylase Antibody.	Am J Case Rep. 2024 May;25:e943590.	Case report
48	Kurinami N, Sugiyama S, Yoshida A, et al.	内科学講座 内分泌代謝内科部門	Calculated estimation of the metabolic clearance rate of insulin measured by glucose clamp examination in out-patient clinical practice.	Diabetol Int. 2024 Sep;15(4):867–869.	Original Article
49	Kurinami N, Ashida K, Sugiyama S, et al.	内科学講座 内分泌代謝内科部門	Severe periodontal disease in Japanese patients with high HbA1c levels: a cross-sectional study.	Diabetol Int. 2024 May;15(3):562–568.	Original Article
50	Keisuke Hirota, Hiroo Matsuse, Ryuki Hashida et.al	リハビリテーション部	Prevalence of locomotive syndrome and associated factors in patients receiving hemodialysis	Medicine. 104(1):e40007, January 03, 2025.	Original Article
51	Hashida R, Nakano D, Kawaguchi M, Younossi ZM et.al	リハビリテーション部	Changing from NAFLD to MASLD: The implications for health-related quality of life data	J Hepatol. 2024 Jun;80(6):e249–e251	Original Article
52	Hashida R, Golabi P, Ong J, Kawaguchi T et.al	リハビリテーション部	Alcohol and Metabolic Syndrome Interaction	Clin Liver Dis. 2024 Nov;28(4):601–620	Original Article
53	Matsuse H, Tajima H, Baba E, Iwanaga S, Omoto M et.al	リハビリテーション部	Hybrid Training System Consisting of Synchronized Neuromuscular Electrical Stimulation for Voluntary Exercise Using an Articular Motion Sensor	Kurume Med J. 2024 Dec 10;70(3.4):83–89.	Original Article
54	Hashida R, Kawaguchi T, Nakano D, Tsutsumi T et.al	リハビリテーション部	Fast score is associated with patient-reported outcomes in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2025 Feb 1;37(2):190–1+B6:M1097	Original Article
55	Shosaburo Jotaki, Kenta Murotani, Kensuke Oshita, et al.	麻酔科	Efficacy and safety of pulmonary artery catheterization with combined transesophageal echocardiography and pressure waveform: A prospective observational study	Helion. 2024 Oct; 10(19): e38643	Original Article
56	Shosaburo Jotaki, Kenta Murotani, Teruyuki Hiraki	麻酔科	Preventive effect of hydroxyzine on postoperative nausea and vomiting: a single-center, retrospective, observational cohort study	J Clin Med 2024 Dec; 13(24): 7807	Original Article
57	Mizoguchi E.	免疫学講座	Brown-Kurume exchange programs have reached their present status through many unexpected	Kurume Med J 2024 May, 69:119–126	Original Article
58	Mizoguchi E, Sadanaga T, Nanni L, et al.	免疫学講座	Recently updated role of chitinase 3-like 1 on various cell types as a major influencer of chronic inflammation.	Cells 2024 Apr;13:678.	Original Article
	Sugita Y, Furuta T, Takahashi K et al	病理学講座	Elevated expression of N-myc downstream regulated gene 1 protein in glioblastomas reflects tumor angiogenesis and poor patient prognosis.	Neuropathology. 2024 Dec;44(6):422–431.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題　名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
60	Moritsubo M, Furuta T, Miyoshi J et al	病理学講座	Increased expression of leucine-rich α -2 glycoprotein 1 as a predictive biomarker of favorable progression-free survival in meningioma.	Neuropathology. 2024 Apr;44(2):96–103.	Original Article
61	Yamada Y, Miyoshi H, Takeuchi M et al	病理学講座	TIGIT expression on neoplastic cells is a poor prognostic factor for adult T-cell leukaemia/lymphoma.	Pathology. 2024 Dec;56(7):993–999.	Original Article
62	Kugiyama T, Koganemaru M, Sumi A, et al.	放射線科	Clinicopathological evaluation of postpancreaticoduodenectomy hemorrhage with endovascular treatment.	Kurume Med J 2024 Aug; 10.2739/kurumemedj.MS7034001	Original Article
63	Tanoue S, Koganemaru M, Kuhara A, et al.	放射線科	Embolotherapy of Head and Neck Lesions: Basics and Clinical Tips.	Interv Radiol, 2024 Oct; 10.22575/interventionalradiology.2024–0017	Review
64	Hara M	小児科	Sertraline treatment for paroxysmal nonkinesigenic dyskinesia comorbid with anxiety and depression	eNeurologicalSci 2024 Jul 31:36:100520. doi: 10.1016	Case report
65	Mitsunari Habukawa, Tatsuyuki Kakuma, Motohiro Ozone et al.	精神神経科	Factors associated with the long-term use of benzodiazepine receptor agonists as hypnotics among patients with major depressive disorder and comorbid insomnia	Journal of Psychiatric Research 2024 Aug; 178: 359–366	Original Article
66	Naohisa Uchimura, Motohiro Ozone, Masahiro Suzuki et al.	精神神経科	Long-term safety and efficacy of daridorexant in Japanese patients with insomnia disorder	Sleep Medicine 2024 Aug; 122: 64–70	Original Article
67	Naohisa Uchimura, Mitsutaka Taniguchi, Yu Ariyoshi et al.	精神神経科	Daridorexant in Japanese patients with insomnia disorder: A phase 3, randomized, double-blind, placebo-controlled study	Sleep Medicine 2024 Aug; 122: 27–34	Original Article
68	Tomoyuki Nakamura, Misari Oe, Ken Uematsu et al.	精神神経科	Inter-rater reliability study of the Japanese version of the diagnostic clinical interview for drug withdrawal post SSRIs or SNRIs (DID-W1-J)	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 2025 Mar; 4(1): 1–3	Original Article
69	Shibao K, Shibata T, Kitamura C, et al.	心臓・血管内科	Differential Hypoxia Risk in Cardiopulmonary Arrest Patients Undergoing Veno-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation and IMPELLA Support.	ASAIO J. 2024 Dec 1;70(12):1017–1024.	Original Article
70	Fukumoto Y, Tada T, Suzuki H, et al.	心臓・血管内科	Chronic Effects of Adaptive Servo-Ventilation Therapy on Mortality and the Urgent Rehospitalization Rate in Patients Experiencing Recurrent Admissions for Heart Failure – A Multicenter Prospective Observational Study (SAVIOR-L).	Circ J. 2024 Apr 25;88(5):692–702.	Original Article
71	Tahara A, Motoyama S, Malik S, et al.	心臓・血管内科	Formation of the interatrial septum: Insights obtained from cardiac computed tomographic angiography.	Clin Anat. 2025 Mar;38(2):158–167.	Original Article
72	Nohara S, Mok Y, Van't Hof JR, et al.	高度救命救急センター	Subsequent risk of cancer among adults with peripheral artery disease in the community: the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study.	Int J Cardiol. 2025 Jan 1:418:132577. (オンライン)	Original Article
73	Shibata T, Matsumoto S, Muramoto T, et al.	心臓・血管内科	Comparison of the treatment status of patients with acute heart failure before and during the COVID-19 pandemic – Observational cohort study using Japanese administrative data.	J Cardiol. 2024 Jul;84(1):47–54.	Original Article
74	Shibata T, Mizuno A, Ohmori T, et al.	心臓・血管内科	Public awareness of palliative care for heart failure in Japan: A cross-sectional study.	J Cardiol. 2024 Oct;84(4):274–275.	Original Article
75	Nohara-Shitama Y, Mok Y, Ballew SH, et al.	心臓・血管内科	Associations of Dietary Calcium and Phosphorus With Vascular and Valvular Calcification: The ARIC Study.	JACC Adv. 2024 May 20;3(7):100993. (オンライン)	Original Article
76	Tahara A, Tahara N, Honda A, et al.	心臓・血管内科	Clinical and biochemical factors associated with amygdalar metabolic activity.	NPJ Aging. 2025 Jan 25;11(1):2. (オンライン)	Original Article
77	Yamaji K, Sasaki KI, Nakano M, et al.	心臓・血管内科	Catheter-based examination for pulmonary microcirculatory function in patients with pulmonary hypertension.	PLoS One. 2024 Oct 24;19(10):e0312609. (オンライン)	Original Article
78	Fukumoto Y	心臓・血管内科	Impact of female sexual dysfunction on cardiovascular diseases.	Eur J Prev Cardiol. 2024 May 11;31(7):780–781.	Others
79	Bekki M, Tahara N, Koga Y, et al.	心臓・血管内科	Coronary inflammation after percutaneous coronary intervention as a potential risk of the progression of non-culprit lesions.	BMJ Case Rep. 2024 Sep 24;17(9):e262780. (オンライン)	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
80	Tahara N, Fukumoto Y, Tayama E	循環器病センター	Utility of vector flow mapping and [¹⁸ F]fluorodeoxyglucose-positron emission tomography/computed tomography to assess left ventricular workload in obstructive hypertrophic cardiomyopathy.	Eur Heart J. 2024 Apr 21;45(16):1488.	Case report
81	Bekki M, Tahara N, Fukumoto Y	心臓・血管内科	Primary cardiac lymphoma causing coronary artery compression and massive tricuspid regurgitation.	Eur Heart J. 2024 Sep 7;45(34):3185.	Case report
82	Morita K, Tahara N, Fukumoto Y	心臓・血管内科	Multimodal imaging in Löffler's endocarditis.	Eur Heart J. 2024 Nov 14;45(43):4663.	Case report
83	Eto Y, Tahara N, Fukumoto Y	心臓・血管内科	Relapsing pericarditis mimicking aortic dissection.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Feb 27;9(3):ytaf111.(オンライン)	Case report
84	Morita K, Tahara N, Bekki M, et.al.	心臓・血管内科	Primary cardiac angiosarcoma confirmed by immunophenotype of pericardial fluid and multimodal imaging modalities.	J Nucl Cardiol. 2024 Sep;39:101887.	Case report
85	Koga Y, Tahara N, Fukumoto Y	心臓・血管内科	Balloon pulmonary angioplasty with inotropic agent and pulmonary vasodilators for chronic thromboembolic pulmonary hypertension.	Eur Heart J Case Rep. 2025 Mar 26;9(4):ytaf153.(オンライン)	Case report
86	Kei-Ichiro Uemura , Akinobu Togo , Tasuku Hiroshige et al.	泌尿器科	Three-dimensional ultrastructural and anatomical analysis of prostatic neuroendocrine cells in mice	The Prostate 84(9):866–876.,2024.4	Original Article
87	Yoshihiro Kawaguchi , Keisuke ,Ohta , Tasuku Hiroshige et al.	泌尿器科	Sheet-like interstitial cells connect epithelial and smooth muscle cells in the mouse prostate	Acta Histochem 126(3):152153,2024.4	Original Article
88	Kosuke Ueda , Naoki Ito , Yuya Sakai et al.	泌尿器科	Efficacy and Safety of Nivolumab With Ipilimumab in Elderly Patients With Advanced Renal Cell Carcinoma	Anticancer Res 44(11):5087–5093,2024.11	Original Article
89	Makoto Nakiri, Naoyuki Ogasawara, Hirofumi Kurose et al.	泌尿器科	A prospective comparison of implant quality between suture-coated seeds and uncoated seeds in prostate cancer brachytherapy	J Contemp Brachytherapy 16(5): 315–322,2024.10	Original Article
90	Tasuku Hiroshige , Hiroki Suekane , Takaho Tokunaga et al.	泌尿器科	Prognostic Stratification Using Early Prostate-specific Antigen Kinetics in Men With Metastatic Hormone-sensitive Prostate Cancer	Anticancer Res. 2025 Feb;45(2):751–759	Original Article
91	Hirofumi Kurose , Kosuke Ueda , Katsuaki Chikui et al.	泌尿器科	Effects of long-term desmopressin treatment for nocturia in older people	Int J Urol. 31(10):1114–1120,2024.10	Original Article
92	Matsugaki T, Mizu-Uchi H, Shibata H,et al	整形外科	Anatomical study of the modified direct posterior gluteal splitting approach for acetabular fractures	Injury . 2024 Jun;55(6):111519. doi: 10.1016/j.injury.2024.111519. Epub 2024 Apr 3.	Original Article
93	Hashida R, Nakano D, Kawaguchi M,et al	整形外科	Changing from NAFLD to MASLD: The implications for health-related quality of life data	J Hepatol . 2024 Jun;80(6):e249–e251. doi: 10.1016/j.jhep.2024.02.010. Epub 2024 Feb 23.	Original Article
94	Hashida R, Golabi P, Ong J,et al	整形外科	Alcohol and Metabolic Syndrome Interaction	Clin Liver Dis . 2024 Nov;28(4):601–620. doi: 10.1016/j.cld.2024.06.002. Epub 2024 Jul 23.	Original Article
95	Kikuchi K, Holleman GT, Cardona JJ,	整形外科	Evolution of the term "epicondyle of the femur": Revisiting the anatomical and surgical literature	Clin Anat . 2024 Jul;37(5):571–577. doi: 10.1002/ca.24160. Epub 2024 Mar 23.	Original Article
96	Kato N,Haruta M, Arai R, et al.	眼科	Relationship between fluoroquinolone resistance and mutations in the quinolone resistance-determining region in <i>Corynebacterium macginleyi</i> .	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024 Sep (オンライン)	Original Article
97	Matsuo Y, Monden Y, Sasaki K, et al.	眼科	Treatment outcomes in patients with conjunctival mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma.	Clini Ophthalmol. 2024 Jul (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
98	Sakata K, Tanaka K, Rikimaru H, et al.	形成外科・顎顔面外科	A Case of Successful Maggot Debridement Therapy for A Refractory Ulcer After Posterior Cervical Vertebroplasty	International Journal of Surgical Wound Care. 2024 May; 5: 57–61	Case report
99	Gotoh K, and Kakimoto K.	感染制御科	Transition of yellow fever immunization environment in Japan.	J Infect Chemother. 2025 Mar 21:102685. doi: 10.1016/j.jiac.2024.102685	Original Article
100	Jun Kawabata, Kotaro Kuwaki	高度救命救急センター看護部	A Comparative Analysis of Nursing Care Needs Scores at Discharge and Transfer Among Survivors of Critical COVID-19 and Septic Shock: A Retrospective Observational Study Using Modified Poisson Regression From Japan	Cureus. 2024 Nov 19;16(11):e74032.	Original Article
101	Taku Yamada, Taketomo Kikuchi, Sachiko Nagasu, et al.	薬剤部	Patient Satisfaction Survey on Portable Infusion Pumps for Colorectal Cancer Chemotherapy: Hard-Shelled or Soft-Shelled?	Patient Prefer Adherence. 2024 Jul 8:18:1443–1449.	Original Article
102	Yoshiro Sakai, Seiji Karakawa, Takato Koutaki, et al.	薬剤部	Concomitant Administration of Vancomycin with a High Dose of Meropenem May Cause Acute Kidney Injury	Case Reports in Infectious Diseases. 2024 Jun 20:2024:7956014.	Case report
103	Masayuki Kunitake, Aya Goto, Yoshiro Sakai, et al.	薬剤部	Exploring Predictors of Hypertension Development With Pazopanib and Examining Predictive Performance Over Time	In Vivo. 2024 Jul–Aug;38(4):1882–1890.	Original Article
104	Otsu Y, Yamakawa Y, Eto T, et al.	脳神経外科	Rare Segmental Agenesis of Internal Carotid Artery without Rete-Like Collaterals: A Case Report	J Neuroendovasc Ther 2024 Aug;18(9):245–249.	Case report
105	Sugi K, Kikuchi J, Yoshitomi M, et al.	脳神経外科	Leakage Sign Is a Reliable Predictor of Hematoma Expansion in Acute Epidural Hematoma	World Neurosurg 2024 Sep;189:e674–e680.	Original Article
106	Sakata K, Hashimoto A, Takeshige N, et al.	脳神経外科	Clinical and radiographic characteristics of patients with non-functioning pituitary adenomas categorized according to their serum prolactin concentration: novel predictors of postoperative transient diabetes insipidus following surgery	Endocrine 2024 Aug;85(2):837–848.	Original Article
107	Kajiwara S, Kawano T, Hasegawa Y, et al.	脳神経外科	Impact of Clazosentan on Vasospasm Reduction and Functional Recovery after Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage	Neurol Med Chir (Tokyo) 2025 Jan 15;65(1):29–36	Original Article
108	Otsu Y, Yamashita S, Kuramoto T, et al.	脳神経外科	Metastatic Temporal Bone Tumor From Renal Cell Carcinoma Coexisting With Sphenoid Ridge Meningioma: A Case Report	Cureus 2024 Nov 7;16(11):e73198.	Case report
109	Nakahara Y, Kikuchi J, Kotaki Y, et al.	脳神経外科	The Usefulness of Vascularized Flap Craniotomy for Open-Wound Depressed Skull Fractures	Neurosurg Pract 2024 Sep 10;5(4):e00111.	Case report
110	Koga M, Hasegawa Y, Kikuchi J, et al.	脳神経外科	Leakage sign based on contrast-enhanced CT is a predictive marker for hematoma expansion and poor prognosis in primary brainstem hemorrhage	Brain Hemorrhages 2025 Feb, 6(1); 19–23	Original Article
111	Kiminobu Sato, Takashi Kurita, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Pathogenesis of Reinke's edema of the vocal fold	Laryngoscope 134: 1785–1791, 2024 Apr	Original Article
112	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Growth and development of epiglottis and preepiglottic space of larynx as it acquires vocal tract.	Laryngoscope Investig Otolaryngol 9: e1288, 2024 Jun	Original Article
113	Kiminori Sato, Taikai Kuroiwa, Tsunehiro Oka, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Phonosurgical histoanatomy of the maculae flavae of the vocal folds as a stem cell niche	Larynx Japan 36: 22–27, 2024 Jun	Original Article
114	Shun-ichi Chitose, Mioko Fukahori, Takashi Kurita, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Relationship between swallowing pressure and saliva residue on endoscopic evaluation in pharyngeal dysphagia.	Laryngoscope 134: 3519–3526, 2024 Aug	Original Article
115	Takeharu Ono, Shun-ichi Chitose, Takashi Kurita, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Therapeutic Management for Advanced Laryngeal and Hypopharyngeal Cancer in the Elderly : Chemoradiotherapy for Advanced Cancer	Larynx Japan 36: 75–83, 2024 Dec	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題　名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
116	Takahiro Tsujikawa, Kazuchika Ohno, Kei-Ichi Morita, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Clinical, genomic and immune microenvironmental determinants of nivolumab response in head and neck squamous cell carcinoma	Front Immunol 15:1390873, 2024 Jul	Original Article
117	Yuji Imahara, Takeharu Ono, Norimitsu Tanaka, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Effectiveness and feasibility of selective intra-arterial low dose of cisplatin infusion and concomitant radiotherapy for patients with advanced laryngeal cancer with impaired renal function: A retrospective cohort study	Head & Neck 46:3085–3094, 2024 Dec	Original Article
118	Toshiyuki Mitsuhashi, Sachiko Ogasawara, Masamichi Nakayama, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Gamma-glutamyl cyclotransferase, a molecule identified from the invasive front of follicular thyroid carcinoma, is useful for differential diagnosis of follicular thyroid tumors	Pathol Res Pract. 2024. Dec. 264. 155678	Original Article
119	Naoki Hashizume	外科学講座小児外科部門	Outcomes of nonrejection in weakly fluorescent intestine detected by indocyanine green fluorescence angiography: a case series of infants.	Surg Case Rep. 2024 Apr 24;10(1):97.	Case report
120	Naoki Hashizume	外科学講座小児外科部門	Calcification of the mesenteric veins suspected of idiopathic mesenteric phlebosclerosis associated with long-term herbal medicine 'inchinkoto' prescribed for biliary atresia: A multicenter study	Traditional & Kampo Medicine 2024 Dec	Original Article

計 120件

注1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

報告の対象としては、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限ること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

注3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

注4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 卷数: 該当ページ」の形式で記載すること

注5 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

注6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	安藤 みや	呼吸器・神経・膠原病内科	STAT1 Mutations in Chronic Mucocutaneous Candidiasis Diagnosed in an Adult	Intern Med. 2024 May 1;63(9):1269–1271.	Case report
2	菊池 真介	呼吸器・神経・膠原病内科	A 73-year-old Japanese Woman With Rheumatoid Arthritis and Exposure to Water From a Well.	Clin Infect Dis. 2024 Aug 16;79: 564–567.	Case report
3	財前 圭晃	呼吸器・神経・膠原病内科	A Case Presenting with Magnesium OxideBroncholiths.	Intern Med 2024 Dec 5;10.2169/internalmedicine.4517–24	Case report
4	西井 裕哉	呼吸器・神経・膠原病内科	Eosinophilic Meningoencephalitis Occurred during Oral Corticosteroid Tapering and after Switching from Anti-IL-5 to Anti-IgE Treatment.	Intern Med. 2025 Jan 1;64(1):153–156.	Case report
5	Nagafuji K, Miyamoto T, Eto T, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Augmented use of L-asparaginase markedly improves AYA ALL outcomes: FBMTG prospective MRD2014 study	Blood Neoplasia. 2024 Aug 1;1(3):100033.	Original Article
6	Oya S, Ozawa H, Morishige S, et al	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	High-dose cytarabine plus gemtuzumab ozogamicin as consolidation therapy in patients with favorable- or intermediate-risk acute myeloid leukemia	Int J Hematol. 2024 Sep;120(3):297–304.	Original Article
7	Oya S, Ozawa H, Nakamura T, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	CRISPR/Cas9 gene editing clarifies the role of CD33 SNP rs12459419 in gemtuzumab ozogamicin-mediated cytotoxicity	Int J Hematol. 2024 Aug;120(2):194–202.	Original Article
8	Nakamura T, Oya S, Ozawa H, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Correlation of ex vivo and in vivo ammonia production with L-asparaginase biological activity in adults with lymphoid malignancies	Int J Hematol. 2024 Apr;119(4):426–431.	Original Article
9	宮崎大貴、室屋大輔、橋本和晃、他	外科	長期予後を得られている再発切除断端陽性の腸間膜脂肪肉腫の1例	癌と化学療法.2024.12;51(13):1514–1516	Case report
10	緑川隆太、室屋大輔、橋本和晃、他	外科	急激な転機をたどった肝炎症性筋線維芽細胞腫瘍の1例	日本腹部救急医学会雑誌.2024.5;44(4):605–609	Case report
11	新井相一郎、赤司昌謙、室屋大輔、他	外科	門脈輪状膜を伴った浸潤性胰管内乳頭粘液癌の1例	癌と化学療法.2024.12;51(13):1416–1418	Case report
12	中村守厳、楠川仁悟	歯科口腔医療センター	両側筋突起過形成症による開口障害と両側下顎頭劣形成症による小下顎とオトガイ非対称の併発に対して手術を行った1例	日本顎変形症学会雑誌 34(3),P.221–229,2024.8	Case report
13	中村守厳、松尾勝久、安陪由思、他	歯科口腔医療センター	脂肪組織を伴う舌筋肉内血管腫の1例	日本口腔科学会雑誌 74(1),P.15–22,2025.3	Case report
14	Suzuki H, Tanaka T, Yamaguchi S, et al.	消化器内科	Changing from NAFLD to MASLD: Similar Prognosis of Unresectable Extrahepatic Gastrointestinal Cancer Under Chemotherapy between NAFLD and MASLD	Journal of Hepatology. 2024 Apr; 80: e150–e151	Letter
15	Nakano M, Kawaguchi M, Kawaguchi T	消化器内科	Almost Identical Values of Various Noninvasive Indexes for Hepatic Fibrosis and Steatosis between NAFLD and MASLD in Asia	Journal of Hepatology. 2024 Apr; 80: e155–e157	Letter
16	Suzuki H, Shimose S, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Changing from NAFLD to MASLD: Similar Prognosis of Patients with HCC Under Atezo/Bev treatment between NAFLD and MASLD	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Apr; 30: 263–265	Letter
17	Tsutsumi T, Nakano D, Kawaguchi M, et al.	消化器内科	Similar respiratory function including chronic obstructive pulmonary disease between non-alcoholic fatty liver disease and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Apr; 30: 266–268	Letter
18	Suzuki H, Tsutsumi T, Kawaguchi M, et al.	消化器内科	Changing from NAFLD to MASLD: Prevalence and progression of ASCVD risk are similar between NAFLD and MASLD in Asia	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Jul; 30: 577–579	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
19	Nakano M, Kuromatsu R, Kawaguchi T	消化器内科	Ultrasonographic Assessment of Tissue Stiffness: Recent Progress in Transient Elastography and Shear Wave Elastography in the Liver and Various Organs	The Kurume Medical Journal. 2024Jul; 70: 1-10	Review
20	Sakaue T, Terabe H, Takedatsu H, et al.	消化器内科	Association between nonalcoholic fatty liver disease and pancreatic cancer: Epidemiology, mechanisms, and antidiabetic medication	Hepatology Research. 2024 Aug; 54: 729-735	Review
21	Hirai S, Okabe Y, Yoshioka S	消化器内科	Successful endoscopic retrieval of migrated biliary plastic stent via hepaticogastrostomy route using uneven double-lumen catheter and stent retriever	Digestive Endoscopy. 2024 Aug; 36: 959-960	Case report
22	Fukunaga S, Nakane T, Mukasa M, et al.	消化器内科	Changing from NAFLD to MASLD: Cumulative incidence of gallstones between patients with NAFLD and those with MASLD in Asia	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Oct; 30: 959-961	Letter
23	Nakamura T, Nakano M, Tsutsumi T, et al.	消化器内科	Metabolic dysfunction-associated fatty liver disease is a ubiquitous latent cofactor in viral- and alcoholic-related hepatocellular carcinoma: Editorial on "Global prevalence of metabolic dysfunction-associated fatty liver disease-related hepatocellular carcinoma: A systematic review and meta-analysis"	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Oct; 30: 705-708	Others
24	Suzuki H, Tsutsumi T, Kawaguchi M, et al.	消化器内科	Equivalent prevalence and progression of chronic kidney disease in non-alcoholic fatty liver disease and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease	Clinical and Molecular Hepatology. 2024 Oct; 30: 962-964	Letter
25	Minami S, Fukunaga S, Mukasa M, et al.	消化器内科	Novel endoscopic approach for safe and effective resection of duodenal neuroendocrine tumor	Endoscopy. 2024 Dec; 56: E961-E962	Case report
26	Suzuki H, Shirone T, Niizeki T, et al.	消化器内科	A Rare Case of Undifferentiated Carcinoma of the Liver Arising in the Context of Primary Biliary Cholangitis	Internal Medicine. 2025 Mar; 64: 833-837	Case report
27	Suzuki H, Mishra S, Paul S, et al.	消化器内科	Molecular and immune landscape of hepatocellular carcinoma for therapeutic development	Journal of Liver Cancer. 2025 Mar; 25: 9-18	Review
28	Nakamura T, Masuda A, Nakano D, et al.	消化器内科	Pathogenic Mechanisms of Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease (MASLD)-Associated Hepatocellular Carcinoma	Cells. 2025 Mar; 14: 428	Review
29	Akiba J, Ogasawara S, Yano H	病理学講座	Genetic Analyses of Primary Liver Cancer Cell Lines: Correspondence With Morphological Features of Original Tumors.	Cancer Genomics Proteomics. 2024 May;21(3):260-271	Original Article
30	牛島 崇, 那須洋紀, 朴 鐘明, 他	産婦人科	ペムブロリズマブが著効した全身性エリテマトーデス合併再発子宮体癌の1例	福岡産科婦人科学会雑誌, 2024 Jul; 48: 34 - 8	Case report
31	木村光宏	放射線部	The relationship between diffusion tensor imaging and the clinical classification of cubital tunnel syndrome.	Radiological Physics and Technology.2024 Sep;17:645-650	Original Article
32	鈴木真	放射線部	Infuence of Gd-EOB-DTPA on proton-density fat fraction in the liver using chemical shift-encoded magnetic resonance imaging at 3-T	Radeological phsics and technology.2024 Sep;17:637-644	Original Article
33	児玉 豪	腎臓内科	Glucagon like peptide-1 modulates urinary sodium excretion in diabetic kidney disease via ENaC activation.	Sci Rep. 2025 3;15(1):11486	Original Article
34	松瀬博夫	リハビリテーション部	電気刺激療法の可能性と今後の展望	久留米医学会雑誌(0368-5810)87巻7-8号 Page175-185(2024.08)	Original Article
35	神谷 俊次, 中野 暖, 服部 優依 他	リハビリテーション部	リハビリテーション治療によりフレイルが改善したアルコール性非代償性肝硬変の1症例	肝臓(0451-4203)65巻11号 Page559-565(2024.11)	Case report
36	Muto R, Miyoshi H, Murayama T et al	病理学講座	A Case of Primary Cutaneous T-Follicular Helper Cell Lymphoma, Follicular-Type	Pathol Int. 2025 Mar;75(3):166-170.	Case report
37	Moritsubo M, Furuta T, Negoto T et al	病理学講座	A case of a pilocytic astrocytoma with histological features of anaplasia and unprecedent genetic alterations.	Neuropathology. 2024 Apr;44(2):161-166.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
38	近末智雅、角 明子、藤本 公則	放射線科	検査各論 画像検査 二次小葉に基づいた免疫・アレルギー性肺疾患の胸部CT画像所見と、胸部CT撮影時の注意点	臨床検査, 2024.6, 68(6): 767-775	Review
39	田上秀一、内山雄介、水 嶋翔平、他	放射線科	脳血管障害に対する治療のための画像診断の進歩	久留米医学会雑誌, 2024.8 87(7・8)	Review
40	山口璃紗、三宅淳、田代尚 崇、et al.	小児科	小児科病棟で1か月半の間に発生した Gordonia 属菌菌血症 2症例の検討	小児感染免疫 36巻3号 2024.8	Case report
41	松岡美智子、石井隆大、 永光信一郎、et al.	精神神経科	精神疾患患者を親にもつ子どもへのインタビュー調 査	子の心とからだ 2024 Nov; 33(3): 298-306	Original Article
42	横山晋二	医療安全管理部	大学病院における医療安全管理の取り組み	久留米醫學會雑誌 2024; 87(7/8):193-198.	Original Article
43	福本義弘、藤本 茂、益子 貴史、他	心臓・血管内科	循環器病に対する複合リハビリテーション:複数の合 併症を有する患者での実施率調査	日本心臓リハビリテーション学会誌(JJCR) 2024 Apr; 30 (2): 197-205.	Original Article
44	Tasuku Hiroshige , Kei- Ichiro Uemura , Kei-Ichiro Nakamura et al.	泌尿器科	Insights on Platelet-Derived Growth Factor Receptor α -Positive Interstitial Cells in the Male Reproductive Tract	Int J Mol Sci 25(7):4128,2024.4.8	Original Article
45	名切 信、植田 浩介、末 金 宏基 他	泌尿器科	「総力戦で制御する」局所進行性前立腺癌に対する 密封小線源療法	西日本泌尿器科学会 86: 204-205,2024.4	Original Article
46	吉田史郎	整形外科	【外傷・治療・看護の必須観察ポイント「超」まるごと 骨折 これ一冊】(第6章)骨折の合併症 ギブス障害	整形外科看護(1342-4718)2024夏季増刊 Page213-218(2024.06)	Original Article
47	新井律樹、春田雅俊	眼科	糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF療法の毛細血管 瘤退縮効果.	あたらしい眼科. 2025 Feb; 42: 229-230,	Others
48	黒瀬智弘、春田雅俊、小嶋 修生、et al.	眼科	プロスタノイドFP受容体作動薬の点眼薬による囊胞 様黄斑浮腫の2例.	眼科臨床紀要. 2024 Jul. 17: 545-549.	Case report
49	西原由華、春田雅俊、實吉 安信、et al.	眼科	梅毒性ぶどう膜炎の2例.	眼科臨床紀要. 2024 Jun; 17: 455-460.	Case report
50	右田 尚、守永 圭吾、力 丸 英明、他	形成外科・顎顔面外科	術後31年に及ぶ長期経過を観察できた顔面巨大動 静脈奇形の1例	形成外科 67(5) ; 486-492, 2024年5月	Case report
51	守永 圭吾、清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	I.組織障害 4.感染創における創傷治癒	形成外科 67増刊号 ; S70-S75, 2024年6月	Review
52	力丸 由起子、守永 圭 吾、右田 尚、他	形成外科・顎顔面外科	重度顔面先天異常(顔面裂)に対する再建手術と最 終touch up surgery	形成外科 67(7) ; 697-706, 2024年7月	Case report
53	渡邊 浩	感染制御科	病院環境由来のバイオフィルム関連感染症と次亜 塩素酸水の効果について	Bacterial Adherence & Biofilm, 38: 1-2, 2024.7	Original Article
54	Kan Sugishima, Hideaki Sakuramoto, Yusuke Oyama, et al.	看護部	The Impact of High-Flow Nasal Oxygen Therapy on Swallowing Function and Aspiration in Patients and Healthy Adults: A Scoping Review	Cureus. 2024 Dec 7;16(12):e75287.	Review
55	上瀧喬仁、樋口恭子、松 山典子、他	薬剤部	中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するメトトレキ サート 大量療法の排泄遅延リスクに関する後方視的調査	Vol.60 No.4 2024.4 日本病院薬剤師会雑誌	Original Article
56	下川尚子、榎本由貴子、 上家和子、他	脳神経外科	脳神経外科を取り巻く諸問題 日本の脳神経外科に 関連する9学会における管理的立場のジェンダーバ ランス調査	脳神経外科ジャーナル 2024.7, 33(8): 536-543	Original Article
57	古賀誉久、森岡基浩	脳神経外科	実地医家における脳卒中診療のポイント 脳卒中の 各病型の治療 一脳出血 脳出血に対する外科治 療	臨床と研究 2024.11 101(11): 1361-1366	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題　名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
58	坂田清彦 森岡基浩	脳神経外科	アプローチから学ぶ脳神経外科の歴史 Orbitozygomatic approach	脳神経外科速報 2025.3 35(2):170-177	Review
59	高島知央、河野隆幸、野中崇久、他	脳神経外科	経鼻な頭部外傷後に発症した中大脳動脈解離性動脈瘤に対して直達手術を行った1例	脳卒中の外科 2024.10 52(5):382-386	Case report
60	村岡範裕、田中宏明、川場知幸、他	脳神経外科	DBSデバイス抜去なしで頭部創理解の再建術を行つたパーキンソン患者の1例	機能的脳神経外科 2025.2 63, 140-144	Case report
61	梶原壮翔、中村普彦、河野隆幸、他	脳神経外科	脳動脈瘤血管内治療における3Dプリンターを用いた新規マイクロカーテルシェービングの有用性	脳卒中の外科 2025.3 53(2):102-107	Original Article
62	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	顎関節脱臼整復	耳喉頭頸 96:453-456, 2024.5	Original Article
63	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	加齢声帯の機能組織学的变化	Precision Medicine 7:8-11, 2024.10	Original Article
64	宮崎 瑞穂、小野 剛治 佐藤 文彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	気道狭窄をきたしECMO下に甲状腺全摘出術を行つた甲状腺乳頭癌症例	JOHNS 40:1193-1195, 2024.9	Original Article
65	小野 剛治、田中 法瑞 梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	喉頭がん	耳喉頭頸 96:338-341, 2024.4	Original Article
66	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	声帯麻痺の診断と治療	日耳鼻 127:176-179, 2024.11	Original Article
67	末吉 慎太郎、渡邊 紗千 永田 圭、他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	LESAの病理診断からシェーグレン症候群の診断に至つた耳下腺内多発膿疱症例	頭頸部外科 34:157-163, 2024.8	Original Article
68	三橋 亮太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	側頭骨骨折・外リンパ瘻	耳喉頭頸 96:998-1003, 2024.11	Original Article
69	大山 学、伊藤泰介、天羽康之、他	皮膚科	日本皮膚科学会 円形脱毛症診療ガイドライン2024	日本皮膚科学会雑誌134巻10号:2491-2526,2024.9	Original Article
70	浦上仁志、三宅智子、篠倉美里、他	皮膚科	口腔・鼻粘膜びらんを初発症状とした水疱性エリテマトーデスの1例	西日本皮膚科86:125-129,2024.4	Case report
71	定本真梨子、吉田憲司、 漆畠真理、他	皮膚科	腎移植後の免疫抑制薬内服中に生じたBrunsting-Perry型類天疱瘡の1例	臨床皮膚科78:315-320,2024.4	Case report
72	添田麻莉、大園綾花、石井文人、他	皮膚科	アプレミラストが口腔内潰瘍のみならず副症状にも奏効したBehcet病	皮膚病診療46:1018-1021,2024.11	Case report
73	藤吉りり子、石井文人、嘉多山絵理、他	皮膚科	関節リウマチ患者に逆説的反応の乾癬様皮疹を呈した1例	皮膚科の臨床66:557-560,2024.5	Case report
74	山本紗由美、武藤一考、 森田寛之、他	皮膚科	複数回の切除後にも再発した多発型Nevus lipomatous cutaneous superficialisの1例	西日本皮膚科 86:117-118,2024.4	Case report
75	村山友実子、夏秋洋平、 本田えり、他	皮膚科	オシメルチニブ投与中に発症したErosive Pustular Dermatosis of the Scalpの1例	西日本皮膚科86:479-482,2024.10	Case report
76	山本美友貴、草野美沙希、 石井文人、他	皮膚科	眼粘膜症状を認め、潰瘍性大腸炎を伴つたPyodermatitis-pyostomatitis vegetansの1例	日本皮膚科学会雑誌134:2085-2096,2024.7	Case report
77	細川祐太郎、端本宇志、 石井文人、他	皮膚科	尋常性天疱瘡寛解患者に生じた抗BP180抗体・抗ラミニン332抗体両者陽性の粘膜類天疱瘡	皮膚科の臨床66:1367-1370,2024.9	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
78	澤崎百合香, 野田達宏, 石井文人, 他	皮膚科	リサンキズマブ中止後の乾癬患者に発症した抗ラミニン γ 1類天疱瘡の1例	皮膚科の臨床66:1499–1502,2024.10	Case report
79	定本真梨子, 吉田憲司, 漆畠真理, 他	皮膚科	腎移植後の免疫抑制薬内服中に生じたBrunsting-Perry型類天疱瘡の1例	臨床皮膚科78:315–320,2024.4	Case report
80	Koga H, Teye K, Hamada T, 他	皮膚科	A case of intermediate recessive dystrophic epidermolysis bullosa with a novel COL7A1 mutation.	J Dermatol. 51: e231–e232, 2024 Jul	Case report
81	Koga H, Tsutsumi M, Ishii N, 他	皮膚科	Pemphigoid gestationis after egg donation: A case report and literature review.	J Dtsch Dermatol Ges. 22: 1560–1564, 2024 Nov	Case report
82	Ishii N, Koga H, Teye K, 他	皮膚科	Eccrine syringofibroadenoma as a manifestation of ichthyosis follicularis–trichia–photophobia syndrome–1.	Int J Dermatol. 2025 Feb;64(2):417–418.	Letter
83	Higashida S, Nishimura K, Muneishi Y, 他	皮膚科	A Case of Refractory Pemphigus Herpetiformis with Positive Anti-Desmoglein 1 Antibody: Case Report and Literature Review to Revisit the Disease Characteristics of 167 Cases.	Indian J Dermatol. 2024 May–Jun;69(3):283.	Letter
84	Sugiura R, Hashimoto T, Ishizuka Y, 他	皮膚科	Matrix metalloproteinase-9 and neutrophil elastase from infiltrating neutrophils with neutrophil extracellular DNA traps in linear IgA bullous dermatosis: A case report.	J Dermatol. 2024 Oct;51(10):e337–e339.	Letter
85	Nishitani K, Nakamizo S, Shindo T, 他	皮膚科	Coexistence of oligoclonal and polyclonal HTLV-1-positive T cells with presentation of acute-type adult T-cell leukaemia–lymphoma successfully treated by ultraviolet B phototherapy and etretinate.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2024 Aug 8. doi: 10.1111/jdv.20284.	Letter
86	Naito R, Hiwa R, Inaba R, 他	皮膚科	A Case of Vesiculobullous Dermatomyositis with Anti-NXP-2 Antibody without Malignancy.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Aug 1. doi: 10.1093/mrcr/rxae037.	Letter
87	Sendai A, Nakamizo S, Kaku Y, 他	皮膚科	Mycosis fungoides with long-standing localized palmar and axillary nodules with syringotropism: a case report.	Clin Exp Dermatol. 2024 Sep 18;49(10):1255–1258.	Case report
88	Hirano-Lotman Y, Ishida Y, Kaku Y, 他	皮膚科	Exome sequencing reveals biallelic inactivation of KMT2C in cutaneous apocrine carcinoma: A case report and review of the literature.	JAAD Case Rep. 2024 Apr 25:49:47–50.	Case report
89	Cho R, Nakajima S, Kaku Y, 他	皮膚科	Proteasome inhibitor-associated histiocytoid Sweet's syndrome: Clinical and histological similarities to Nakajo-Nishimura syndrome suggest a potential mechanism.	J Dermatol. 2024 Oct;51(10):1355–1359.	Case report
90	Nakaizumi H, Kambe N, Irie H, 他	皮膚科	Neutrophilic epitheliotropism, proposed as an auto-inflammatory condition of neutrophilic urticarial dermatosis including Schnitzler syndrome, is also observed in Japanese cases.	J Dermatol. 2024 Apr;51(4):592–596.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
91	Kunitake M, Goto A, Sakai Y, 他	皮膚科	Exploring Predictors of Hypertension Development With Pazopanib and Examining Predictive Performance Over Time	In Vivo. 2024 Jul-Aug;38(4):1882-1890.	Original Article
92	Masafumi Fukuda, Nobuhisa Hirayu, Masakazu Nabeta, et al.	高度救命救急センター	Factors Associated with the Onset of Acute Kidney Injury Following Subarachnoid Hemorrhage	World Neurosurg. 2024 Oct;190:e1093-e1099.	Original Article
93	升井 大介	外科学講座小児外科部門	院の小児病棟における国際標準化機構(ISO)規格誤接続防止コネクタ(経腸栄養)の導入前後の変化について アンケート調査より浮かび上がる課題	日本臨床栄養学会雑誌,2024年12月	Original Article
94	升井 大介	外科学講座小児外科部門	ベッドサイドで考える重症心身障害者に対する医療栄養評価、嚥下機能評価、消化管機能検査による診療サポート	外科と代謝・栄養 2024年8月	Original Article
95	加治 建	外科学講座小児外科部門	【再手術の戦略と実際】鼠径部ヘルニア	小児外科 56(7) 714-717 2024年7月	Original Article

注1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

注2 記載方法は、シート2の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

※ 商業雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の組織体制、審査体制、各種申請手続き方法	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成及び運営、委員会の審議事項 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容 臨床研究における指針及び臨床研究法、臨床研究の基礎知識、 研究審査のための解説及び臨床研究機関の体制整備、 再生医療等の安全性の確保等に関する法律改正のポイント	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

※別紙1のとおり

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	175. 79	人
-------------	---------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する臨床研修の実施

様式4-1 別紙①

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内 科	腹部超音波検査	消化器内科	川口 巧
		上部消化管内視鏡検査		
		心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		経胸壁心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー（リードレス含む）・除細動器植え込み術・心臓再同期療法心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）		
		透析技術研修	腎臓内科	深水 圭
		腎臓エコー検査		
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診	内分泌代謝内科	野村 政壽
2	整形外科	造血器疾患の診断と治療、特に造血器悪性腫瘍の診断と造血細胞移植	血液・腫瘍内科	長藤 宏司
		整形外科疾患に対する診療診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	平岡 弘二
3	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的手術手技の研修（局所麻酔手術の執刀）	形成外科・顎顔面外科	力丸 英明
		形成外科基本的理論研修（創傷治癒、皮膚切開、皮膚縫合、採皮、植皮）		
4	脳神経外科	DSA（脳血管撮影）	脳神経外科	森岡 基浩
		神経内視鏡手術		
		穿頭術		
5	外科	ABI検査	外科	藤田 文彦
6	泌尿器科	腹部エコー	泌尿器科	井川 掌
7	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する産科医療	産婦人科	津田 尚武
		経腹・経腔超音波断層法		
8	麻酔科	手術麻酔（手術管理）	麻酔科	平木 照之
9	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	古賀 浩嗣
10	精神神経科	精神神経科専門医研修	精神神経科	小曾根 基裕
11	眼科	眼科基本的診療及び治療の学習	眼科	吉田 茂生
		網膜光凝固術等の眼科処置の習得		
12	放射線科	放射線治療位置決め並びに治療の理解に対する研修	放射線科	田上 秀一
		CT・MRIの総合的画像診断学理解と読影手技の研修		
		IVRの手技の研修		
		核医学の読影と適応疾患の理解に対する研修		
13	小児科	心房中隔欠損症に対するカテーテル治療	小児科	水落 建輝
		脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセン療法		
		ムコ多糖Ⅱ型患者に対する酵素補充療法		
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		予防接種		
14	高度救命救急センター	重症外傷患者に対するFASTと緊急輸血戦略	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止患者に対するECPR		
		産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療		
		心肺停止患者・重症頭部外傷患者に対する体温管理療法		
		重症頭部外傷患者に対する新バルビツレート療法		

研修統括者

様式4-1 別紙②

研修統括者氏名	診 療 科	役 職	臨床経験年数	特 記 事 項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	36	
井田 弘明		診療部長	37	
川山 智隆		診療部長	35	
川口 巧	消化器内科	診療部長	31	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	34	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	32	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	38	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	36	
小曾根 基裕	精神神経科	診療部長	42	
水落 建輝	小児科	診療部長	24	
藤田 文彦	外 科	診療部長	30	
平岡 弘二	整形外科	診療部長	36	
力丸 英明	形成外科・顎顔面外科	診療部長	37	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	39	
加治 建	小児外科	診療部長	38	
古賀 浩嗣	皮膚科	診療部長	37	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	36	
津田 尚武	産婦人科	診療部長	28	
吉田 茂生	眼 科	診療部長	30	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	36	
田上 秀一	放射線科	診療部長	29	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	37	
平木 照之	麻酔科	診療部長	28	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	35	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. (現状)
管理責任者氏名	病院長 野村 政壽
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1参照） 管理関係：事務部長 野村 健次

診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	保管場所	管理方法
病院日誌		・外部倉庫	①紙媒体【入院】 番号法：一元番号法 保管法：タ-ミナ- イジット 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 診療録・診療諸記録（外部倉庫）
各科診療日誌		・薬剤部	レントゲンフィルム（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室） 一部は平成21年4月1日より、スキャンセンター作業室のPACSにおいて電子保存（現在も作業進行中）
処方せん		・各診療科医局・資料室	※平成15年3月31日以前の診療録に関しては、外部倉庫及び各診療科の医局管理にて資料室等に保管されているものもあり。
手術記録		・各診療科受付	②紙媒体【外来】 番号法：一元番号法 保管法：タ-ミナ- イジット 保管対象： <ul style="list-style-type: none">・最終来院日より1年以内（各診療科受付）・最終来院日より1～10年以内（外部倉庫・各診療科受付）・最終来院日より10年以上（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室）
看護記録		・薬剤部	③電子媒体【入院・外来】 平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生したものもスキャンし、全てを電子媒体で保存している。
検査所見記録			
エックス線写真			
紹介状			
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 なお、診療録については法律的に求められた場合を除き、本院外への持ち出しを禁止している。 以下同じ。
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	
規則第一十二条の十一第一項に掲げる事項	規則第一十二条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部 感染関連マニュアル(電 カル及び紙媒体)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御部 感染対策委員会会議資 料、ICT会議資料(メー ル送信)
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理事務室 臨床工学センター 紙媒体にて保存
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター 医療機器部門システム にて管理
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	臨床工学センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十一の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営室

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管 理 担 当 者 一 覧

様式5 別紙①

診 療 科	管理担当者氏名	診 療 科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌 尿 器 科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産 婦 人 科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼 科	吉田 茂生
腎 臓 内 科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放 射 線 科	田上 秀一
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻 醉 科	平木 照之
小 児 科	水落 建輝	高度救命救急センター	高須 修
外 科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整 形 外 科	平岡 弘二	消化器病センター	竹田津 英稔
形成外科・顎顔面外科	力丸 英明	循環器病センター	田山 栄基
脳 神 経 外 科	森岡 基浩	内 科 総 合 外 来	深水 圭
小 児 外 科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮 膚 科	古賀 浩嗣	薬 劑 部	福本 義弘

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 野村 政壽	
閲覧担当者氏名	診療関係:各診療科部長(別紙1参照) 管理関係:事務部長 野村 健次	
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室	
閲覧の手続の概要		
「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第3会議室にて閲覧。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付すること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

閲覧担当者一覧

様式6 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産婦人科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	田上 秀一
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	水落 建輝	高度救命救急センター	高須 修
外科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	平岡 弘二	消化器病センター	竹田津 英稔
形成外科・顎顔面外科	力丸 英明	循環器病センター	田山 栄基
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮膚科	古賀 浩嗣	薬剤部	福本 義弘

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 安全管理に関する基本的考え方 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 安全管理のための職員研修に関する基本方針 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者からの相談への対応に関する基本方針 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 開催状況 : 年 12回 ・ 活動の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善の方策の立案、実施及び職員への周知 改善の方策の実施状況調査及び必要に応じた当該対策の見直し 医療の安全管理の啓発及びその評価を図るために必要な事項 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導 リスクマネジャー会議招集 医療安全に係る患者からの相談に関する対応 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項 その他委員長が必要と認める事項 <p>主な内容 :</p> <p>事故事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、医療安全監査委員会報告、医療安全に資する診療内容のモニタリング結果報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則およびマニュアルの制定・改廃審議、その他</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 24回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて) : 別紙1のとおり 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ その他の改善の方策の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 医療安全推進委員会(多職種)で業務改善計画書を作成し、院内の問題点抽出、計画、実施、評価 改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告 インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知 セイフティコントロールチームでは、チームで再発予防策を検討すべきインシデント・合併症・併発症事例に対して、再発予防策の実施状況や改善状況の確認、フィードバック RRS症例検討委員会で、適切にRRTが起動した事例や改善が必要な事例を選出し、職員の教育を行っている。 M&Mカンファレンスを複数診療科の医師や部門の職種を参考して開催し、原因や対策を考察し、改善の方法やその効果(可能性)について議論し、今後の診療に繋がる提案を具体的に導き出しながら、事例の振り返りを行っている。令和5年度より、外科学講座で開催したM&Mカンファレンスの議事録を医療安全管理部と共有し、医療安全管理者が事例の発生要因や再発防止策について確認している。 医療安全ラウンドを実施し、各部署・部門における医療安全管理対策の遵守状況を確認し、ラウンド結果を部署へフィードバックしている。 	

7. 上記の内容を医療安全管理対策委員会で報告し職員へ周知する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)
・ 指針の主な内容 :	
1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会の組織に関する基本的な事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生時対応に関する基本方針 6. 新興感染症発生時対応に関する基本方針 7. 抗菌薬適正使用にかかる基本指針 8. 他の医療機関との連携に関する基本方針 9. 指針の閲覧に関する基本方針 10. その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容 :	
1. VRE積極的監視培養の結果報告 2. ICTからの活動報告（抗生素適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告） 3. 針刺し・切創体液曝露報告 4. 病棟ラウンド、外来ラウンド状況報告 5. 感染リンクナース委員会の活動状況報告 等	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20回
・ 研修の内容（すべて） :	
1. 流水手洗い演習 2. 血流感染と輸液ルート管理 3. 針刺し・切創・体液曝露対策 4. N95マスクフィットテストチェック 5. PPE着脱演習 6. 感染症トピックス (別紙2参照)	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	(<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)
・ 病院における発生状況の報告等の整備 ・ その他の改善の方策の主な内容 :	
・ 血培陽性者及び感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）ウィルスに関しては感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認し、その都度アウトブレイク対応表に準じてICD/ICNが介入している。 ・ 検査部門・NICU部門におけるJANISに参加している。 ・ 耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへ報告を行っている。 ・ 院内感染対策推進として、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に力を注いでいる。院外では地域病院と連携し研修・講習会を実施している。 ・ 新興感染症対策として（N95マスク）について全職員及び地域に向けての教育研修を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18回
・ 研修の主な内容 :	
2024年4月1日 令和6年度新採用者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」	
2024年4月11日 令和6年度新採用・異動者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」	
2024年4月17日 東6階病棟勉強会 「オンキャスパー点滴静注用3750について」	
2024年5月24日 2024年度看護部研修会 「薬剤部の役割・機能、薬剤師の業務/薬剤の知識と危険性について/取扱い・運用に注意が必要な薬剤」	
2024年5月27日・28日 薬剤部SPD向け研修会 「抗がん剤について・注射編」	
2024年5月28日 スキルドナース研修会 「がん薬物治療について」	
2024年7月25日 西5階病棟勉強会 「産科病棟で使う薬」	
2024年7月26日 中央手術部勉強会（看護師） 「造影剤に関する基礎知識」	
2024年9月12日 中央手術部勉強会（麻酔科医師） 「麻薬の取扱いについて」	
2024年8月13日～2025年3月21日 令和6年度久留米大学病院教育計画に係る必須研修 「医薬品の安全使用について」	
2024年9月30日 西8階病棟勉強会 「がん薬物治療について」	
2024年10月21日 スキルドナース研修会 「造影剤について」	

2024年11月11日	東14階病棟勉強会 「薬剤の知識 抗がん剤の特性・危険性について」
2024年12月11日	西10階病棟勉強会 「薬剤の知識 抗がん剤の特性・危険性について」
2024年12月24日	東6階病棟勉強会 「小児科病棟における注射業務の注意」
2025年1月27日	西12階病棟ナーシングスキル 「皮膚科・歯科・呼吸器科・食道外科」
2025年2月6日	クリニカルパス大会 「クリニカルパス作成時の薬剤師の関わり」
2025年3月14日	内科総合外来勉強会 「血液内科レジメンについて」
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無○) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> (1) 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物・劇物を含む）管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む） (2) 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック (3) 手順書順守状況の確認（医薬品の受領、与薬、調製、ダブルチェック等） 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無○) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 再発性喉頭乳頭腫の補助療法としてシドフォビルを使用 ・ その他の改善の方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> (1) 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため、各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内インターネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。 (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握した者はDI室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。病院倫理委員会や未承認等評価委員会で承認された適応外医薬品や未承認医薬品は、薬剤師が定期的にモニタリングを行っている。 	

(4) 最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 67回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容 : <p>人工心肺及び補助循環装置の研修 人工呼吸器の研修 血液浄化装置の研修 除細動器の研修 閉鎖式保育器の研修 放射線検査（MRI含む）に関する研修（研修医・新人看護師） MRI装置取扱いの安全性講習 MRI装置磁場体験 放射線治療装置の安全取扱い研修 デジタルX線システム（FPD）更新時の研修 移動型CアームX線透視装置更新時の研修 血管造影X線診断層装置更新時の研修 SPECT-CT装置更新時の研修</p>	
<p>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (有) 無) 機器ごとの保守点検の主な内容 : 日常点検、定期点検（一部メーカーによる点検あり） 	
<p>④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) 無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば） : <ul style="list-style-type: none"> その他の改善の方策の主な内容 : パルス透視のフレームレート調整による被ばく線量の低減 被ばく線量管理システムを使用した患者被ばく線量管理 水晶体被ばく線量が多い従事者へ水晶体被ばく線量計の配布 水晶体被ばくに関する注意喚起線量設定及び注意喚起文書の送付 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有(有)・無(無)
<ul style="list-style-type: none"> ・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全担当副院長を医療安全責任者として配置している 2. 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している 3. 医療安全に関する研修を定期的に受講している (業務) <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行い、各部門の安全管理業務を把握する。 2. 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する 3. 医療事故、警鐘事例について周知、指導する 4. 医療安全管理上の問題、対策について周知、指導する 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(有)・無(無)
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA 及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。</p> ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 未承認薬については、未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内インターネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。 (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものは DI 室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の指名の有無(有)・無(無) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の所属・職種： 	
(所属：薬剤部，職種 薬剤師)	(所属： ，職種)
(所属： ，職種)	(所属： ，職種)
(所属： ，職種)	(所属： ，職種)
(所属： ，職種)	(所属： ，職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <p>：管理責任者を医療情報センター長、監督責任者をリスクマネジャー（診療部長）とし、診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネジャー（病棟医長）が毎月5事例程度監査を実施する。監査対象患者はリスクマネジャーが選択する。年に1回インフォームド・コンセントに関する監査の実施状況について定点調査を実施し、7つの監査項目の評価状況を確認。集計結果を医療安全管理対策委員会で報告し、改善が必要な項目について指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 医療情報センター長を管理責任者として配置している。 診療情報システム管理委員会（以下委員会）統括の下、定期的に相互監査（病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う。）を実施している。なお、公正を期するため、当院診療情報管理士も同じ内容を確認し、必要に応じて助言・指導等を行っている。また、相互監査はチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。 委員会統括の下、定期的に科内監査（診療部長・外来医長・病棟医長等で自らの診療科の診療録監査を行う。）を実施している。必要に応じて作成者へ指導を行っている。 <p>監査の結果は、委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙や是正勧告を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（6）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（1）名、専任（）名、兼任（4）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（）名、兼任（）名 うち臨床工学技士：専従（）名、専任（）名、兼任（1）名 うち事務職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策実施状況を把握、分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体低な対策を策定する。 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象 	

が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果に基づく対策の実施等について職員へ指導する。

3. 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等を行う。
4. 医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施、実績を記録する。
5. 医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行うカンファレンスを週1回開催する。
6. 医療安全管理対策委員会との連携状況および事務取り扱いに関すること。
7. 患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いに関すること。
8. 医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。
9. 医療事故、インシデント・合併症/併発症報告書の収集と集計、分析、対策の実施に関すること。
10. 医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報発行、職員への周知及び指導に関すること。
11. 医療安全管理マニュアル等の作成、整備に関すること。

・その他医療安全に関すること

※ 診療モニタリング

①静脈血栓塞栓症予防対策実施状況定点調査（リスク評価、予防策実施状況、予防計画立案、予防策説明状況など）

②高難度新規医療技術施行事例モニタリング

術前：説明書・同意書 取得状況、診療記録内容、IC同席率

術後1日目：手術記録（術中経過、有害事象の有無）

術後IC実施状況（看護師同席と同席記録の有無）

術後記録で経過を確認

術後7日目：診療記録で術後経過を確認

退院時：診療記録、転帰、次回外来受診日を確認

退院後（初回外来日、3ヵ月後、1年後）

診療記録、次回外来受診日を確認

③未承認新規医療技術施行事例モニタリング

同意書、処方開始日、処方中止日、使用回数、終了日、転帰

④3b 以上事故事例に関するIC同席率

⑤鎮静下で行う処置・検査時のモニタリング・記録実施状況

⑥検査結果報告書見落とし防止策（患者への説明と記録）の実施状況

⑦全死亡症例カルテ確認（入院、侵襲的処置・検査時、退院時のIC記録）

⑧画像診断および病理診断報告書の目的外診断発生時の対応状況

⑨転倒・転落発生率

⑩IC記録に関する監査・RRS要請件数、UCT要請件数

⑪一般病棟より救命センター・SICUへ転科転棟した症例

⑫院内急変患者モニタリング

⑬心肺蘇生講習会開催・受講者管理

⑭検体採取時のPDA認証実施率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・ 無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・ 無）

・活動の主な内容：

高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

実施時、手術後、退院時、退院後3か月及び退院後1年経過時に手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているか否かを確認する。術中・術後の経過中に患者が死亡した場合またはその他確認が必要な事象が生じた場合は、その都度手術記録、診療録等の記載内容を確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・ 無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・ 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・ 無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬

品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（（有）・（無））

・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

使用開始時及び定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否か確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（（有）・（無））
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（（有）・（無））

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 355 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 97 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 死亡、死産症例報告件数、報告状況、医療事故調査・支援センターへの報告状況の共有
2. 報告すべき有害事象に関する報告内容検討、合併症報告オカレンス報告制度導入

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（有）（病院名：近畿大学病院・静岡県立がんセンター）・（無））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ

（（有）（病院名：近畿大学病院・静岡県立がんセンター）・（無））

・技術的助言の実施状況

1. インシデントやアクシデントの報告等の状況（報告、分析、改善策の立案及び実施等）について総合的に報告件数において稼働床や職員数を鑑みると、もう少し報告件数が増加することを見込めるのではないか。レベル 3 b 以上の報告件数や報告事案のアナウンスの必要性などを再アナウンスされてもよいのではないか。
2. M&M 開催の意義も含め、医師、研修医の報告件数の改善について、取り組まれてもよいのではないか。
3. 病院の規模に対し、インシデント レベル 0（ゼロ）の報告件数が少ない。レベル 0（ゼロ）の報

告件数が多いことは医療安全文化を築く土台となると思われることから、職員の報告を促す取り組みを行うこと。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

1. 患者相談窓口に関する規約に沿って実施。
2. 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援。
3. 医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応する。
4. 医療安全管理対策委員会で報告。
5. 相談窓口は医療連携センターにおき、患者から受けた相談について、担当部署で審議対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

別紙1のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 特定機能病院管理者養成研修（日本医療機能評価機構）
2. 医薬品安全管理責任者講習会（日本病院薬剤師会）
3. 令和6年度 管理者・実務者セミナー（日本医師会、日本医療安全調査機構）
4. 令和6年度 国公私立大学附属病院医療安全セミナー（大阪大学）
5. 医療安全に関するワークショップ（九州厚生局）
6. 医療安全教育セミナー「医療の信頼性・医療の質を高めるには医療従事者は何をすればいいか」、「医療チームに心理的安全性が必要な理由を考える」（日本医療マネジメント学会）
7. 「医療事故・医療過誤への対応実務」（医療・介護・ヘルスケア戦略特別セミナー社）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑯医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のため講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 令和6年11月1日認定 有効期間 令和11年4月18日

一般病院3（主たる機能）、精神科病棟（副機能）、緩和ケア病院（副機能）

令和6年2月26日～28日 日本医療機能評価機構（3rdG:Ver3.0）受審

一般病院3（主たる機能）、精神科病棟（副機能）

令和6年9月5日 補充審査受審

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

令和7年8月22日公表

・評価を踏まえ講じた措置

評価項目3.1.7：医療機器管理機能を適切に発揮している 「C」評価

医局で購入した医療機器を病院としては把握するよう指導あり。

臨床工学センターにて医局で購入した医療機器をリスト化し2025年8月22日付で認定された。

（注）記載時点の状況を記載すること

No.	区分	開始日	終了日	開催方式・時間等	内容	講師所属	講師名	医師	看護職	コメディカル	事務	計	委託業者
1	第233回	R6. 4. 1(月)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	「低血糖プロトコルについての解説」	内分泌代謝内科	合原 水月	381	874	215	97	1,567	0
2	NSTセミ	R6. 5. 1(水)	R6. 5. 31(金)	e-Learni	「栄養管理の基本について」NSTセミナー(5月)	栄養部	山本 朱	69	434	65	35	603	0
3	腫瘍セン	R6. 5. 1(水)	R6. 6. 30(日)	e-Learni	がん患者への支援体制の動画「AYA世代がん患者における妊娠性温存療法」	産婦人科	三田尾 拡	80	486	76	34	676	0
4	第234回	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	「医療ガスの安全管理について」	臨床工学センター	木嶋 涼二	193	692	94	48	1,027	0
5	第235回	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	「特定機能病院の承認要件に関わる医療安全監査報告」	医療安全管理部	林 ゆかり	132	639	123	71	965	0
6	医療機器	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	医療機器安全講習「保育器」(閉鎖式保育器)	臨床工学センター	堀之内 瑞貴	99	618	57	42	816	0
7	医療機器	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	医療機器安全講習「透析の基本から安全管理」(血液净化装置)	臨床工学センター	今井 徹朗	83	697	53	21	854	0
8	医療機器	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	医療機器安全講習「人工呼吸器について～人工呼吸の患者アセスメントとSAT・SBT～」(人工呼吸器)	臨床工学センター	河村将熙	141	765	59	26	991	0
9	医療機器	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	医療機器安全講習「除細動器について」(除細動器)	臨床工学センター	岩村光晴	179	803	79	26	1,087	0
10	医療機器	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	医療機器安全講習「～人工心肺装置および補助循環装置～」(人工心肺装置及び補助循環装置)	臨床工学センター	嘉松 翔	92	654	67	22	835	0
11	第237回	R6. 5. 1(水)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	「クリニカルパスの基本」	看護部管理室(看護情報担当)	後藤 千津	91	639	84	47	861	0
12	放射線	R6. 5. 1(水)	R6. 10. 31(木)	e-Learni	令和6年度 放射線安全取扱研修 前期	放射線障害防止委員長	安陪 等思	210	602	121	21	954	0
13	NSTセミ	R7. 7. 21(月)	R6. 8. 31(土)	e-Learni	「栄養スクリーニングとGLIM基準」NSTセミナー(7月8月)	小児外科	橋詰 直樹	43	420	41	15	519	0
14	第239回	R6. 8. 30(金)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	『脂肪肝は「NAFLD」から「MASLD」へ』	内科学講座 消化器内科部門	川口 巧	60	385	49	15	509	0
15	第240回	R6. 8. 30(金)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	「終末期における治療抵抗性の苦痛と鎮静について」	緩和ケアチーム・心不全支援チーム	心臓・血管内科 岡部 浩太	84	486	48	27	645	0
16	必須研修	R6. 8. 13(火)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	令和6年度久留米大学病院教育計画に係る必須研修	※下記4項目で一つの講習会※	※下記4項目で一つの講習会※	515	1,073	338	200	2,126	0
					・「個人情報保護」	医療情報センター	石橋 生哉						
					・「医療の倫理」	病院長・久留米大学病院倫理委員会・緩和ケア認定看護師	野村 政壽・川口 巧・松尾 光代						
					・「医療安全管理指針等」	医療安全管理部	横山 晋二						
					・「医薬品の安全使用」	薬剤部	七田 和佳子						
17	放射線	R6. 9. 9(月)	R6. 9. 9(月)	17:45～18:45	令和6年度 放射線安全取扱研修(筑水会館)	病院放射線障害防止委員長・医学部放射線取扱主任者	田上 秀一・久志野 彰寛	35	30	20	7	92	0
18	NSTセミ	R6. 10. 1(火)	R6. 10. 31(木)	e-Learni	「当院採用のPPN、TPNの特徴とビタミンの重要性について」NSTセミナー(10月)	薬剤部	藤丸 亮	37	326	30	8	401	0
19	委託業者	R6. 10. 24(木)	R6. 10. 24(木)	12:30～13:00	第1回当院における委託業者への医療安全管理および感染制御研修会	医療安全管理部・感染制御部	林 ゆかり・森田 真介	0	2	0	0	2	93
20	NSTセミ	R6. 11. 1(金)	R6. 11. 30(土)	e-Learni	「栄養管理の重要性～看護師のアセスメントの視点から～」NSTセミナー(11月)	看護部	市山 葉子	26	208	21	8	263	0
21	放射線	R6. 11. 1(金)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	令和6年度 放射線安全取扱研修 後期	医学部放射線取扱主任者	久志野 彰寛	364	364	76	9	813	0
22	NSTセミ	R6. 12. 30(月)	R7. 1. 31(金)	e-Learni	「周術期口腔機能管理～口腔からの摂食を支援するため多職種連携の視点～」NSTセミナー(1月)	歯科口腔医療センター	寺松 順子	30	251	21	8	310	0
23	委託業者	R7. 2. 13(木)	R7. 2. 13(木)	12:30～13:00	第2回当院における委託業者への医療安全管理および感染制御研修会	医療安全管理部・感染制御部	林 ゆかり・森田 真介	0	2	0	0	2	79
24	第244回	R7. 3. 1(土)	R7. 3. 21(金)	e-Learni	TQM大会活動方針及び実施計画・実績報告/医療安全管理対策委員会	{感染対策・褥瘡対策・緩和ケアセンター運営・栄養サポート運営・クリニカルパス・医療安全管理対策}委員会	緒方 綾・高木 孝実・村上 美樹・丸山 奈津実・後藤 千津・林 ゆかり	15	105	8	7	135	
合計								2,959	11,555	1,745	794	17,053	172

2024年度 「感染対策」研修会受講者数 (2025/3/31現在)

※人数は延べ受講人数

No.	開始日	終了日	開催方式・時間等	内容	講師所属	講師名	医師	看護職	コメディカル	事務	計	委託業者
1	R6.4.10(水)	R6.4.10(水)	14:30~15:00	血流感染と輸液ルートの管理について	感染制御部	片山 英希、森田 真介	7	83	0	0	90	
2	R6.4.12(金)	合計9回実施		流水手洗い演習	看護部 (ICLN)		59	401	7	6	473	
3	R6.5.20(月)	R7.3.21(金)	e-Learning	2024 年度 久留米大学病院が取り組むべき感染対策と具体的な戦略について (e-Learning)	感染対策委員会 感染制御部 /ICT/感染対策リンクナース会		500	1,037	335	176	2,048	
4	R6.5.24(金)	R6.5.24(金)	17:00~18:00	手指衛生、接触感染について	感染制御部 (部長)	渡邊 浩	15	37	12	1	65	
5	R6.6.4(火)	R6.6.4(火)	9:00~14:00	令和6年度手洗いキャンペーン	感染制御部		71	118	138	138	465	102
6	R6.6.17(月)	R6.6.17(月)	17:00~18:00	手指衛生について	感染制御部	三浦 美穂	1	13	0	0	14	
7	R6.7.1(月)	R7.3.21(金)	e-Learning	薬剤耐性(AMR)対策、抗菌薬適正使用について (e-Learning)	薬剤部	酒井 義朗	462	878	250	90	1,680	
8	R6.7.30(火)	R6.8.8(木)	17:00~18:00	ICT巡回チェック項目と感染との関連+手指衛生 (7/30および8/8実施)	感染制御部 (部長)	渡邊 浩	8	90	1	2	101	
9	R6.10.1(火)	R7.3.21(金)	e-Learning	久留米大学病院の廃棄物処理と分別の現状について (e-Learning)	環境管理室	岡野 佳子	204	678	125	64	1,071	
10	R6.10.3(木)	R6.10.3(木)	17:00~18:00	感染対策:管理者編	感染制御部	三浦 美穂	0	63	0	0	63	
11	R6.10.18(金)	R6.10.18(金)	17:30~18:30	COVID-19感染症患者のかかわり方	CNS	感染CNS 森田 真介 老人CNS 首藤 敏夫 精神CNS 山下 真範	0	14	0	0	14	
12	R6.10.24(木)	R6.10.24(木)	12:30~13:00	第1回当院における委託業者への医療安全管理および感染制御研修会	医療安全管理部・感染制御部	林 ゆかり・森田 真介	0	2	0	0	2	93
13	R6.11.1(金)	R7.3.21(金)	e-Learning	みんなで減らそう！医療関連機器褥瘡 (e-Learning)	看護部管理室 (褥瘡専従)	高木 孝実	114	463	52	20	649	
14	R6.10.11(金)	R6.11.21(木)		輸血ラインハブの消毒 (演習)	看護部 (ICLN)	中野 侑生 先生	1	36	0	0	37	
15	R6.12.30(月)	R7.3.21(金)	e-Learning	当院のSSI/デバイスサーベイランスの結果と抗菌薬使用について (e-Learning)	感染制御部・薬剤部	森田 真介・酒井 義朗	58	320	26	7	411	
16	R6.12.6(金)	R6.12.6(金)	14:00~15:00	血流感染の管理について	感染制御部	三浦 美穂、森田 真介	0	38	0	0	38	
17	R6.12.27(金)	R6.12.27(金)	17:00~18:00	耐性菌増加による対策強化	感染制御部 (部長)	渡邊 浩	10	18	0	0	28	
18	R7.1.20(月)	R7.1.20(月)	17:00~17:30	手指衛生と耐性菌、針刺し	感染制御部	宮崎 裕之	11	149	1	2	163	
19	R7.2.13(木)	R7.3.21(金)	12:30~13:00	第2回当院における委託業者への医療安全管理および感染制御研修会	医療安全管理部・感染制御部	林 ゆかり・森田 真介	0	2	0	0	2	79
20	R7.3.1(土)	R7.3.21(金)	e-Learning	TQM大会 感染対策リンクナース会が取り組んだ手指衛生強化の成果報告/感染対策委員会	[感染対策・褥瘡対策・緩和ケアセンター運営・栄養サポート運営・クリニックバス・医療安全管理対策] 委員会	緒方 紗・高木 孝実・ 村上 美樹・丸山 奈津実・ 後藤 千津・林 ゆかり	15	105	8	7	135	
合計							1,536	4,545	955	513	7,549	274

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 - (1) 医師免許を有している者
 - (2) 高度な医療を司る病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者
 - (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者
 - (4) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターの臨床系の教授であるもの
 - (5) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターにおいて、各々が掲げる理念・目標を実現するために必要な資質・能力を有する者
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 無)
- ・ 公表の方法
大学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無)・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無)・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無)・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
合議体の主要な審議内容	
(1) 大学病院の規則に関する事項	
(2) 大学病院の管理運営に関する重要事項	
(3) 臨床研修に関する事項	
(4) その他重要事項	
審議の概要の従業者への周知状況	診療部長会メンバー以外に、事務・コメディカル等の各部門（所属）長も陪席で会議に参加している。会議終了後、会議参加者より各部門の職員へ周知を行っている。
合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）	
公表の方法	大学内ホームページに掲載
外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）	

合議体の委員名簿

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバーネーム	職種	役職（部署名）
1	野村 政壽	医師	病院長
2	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
3	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
4	高須 修	医師	高度救命救急センター長
5	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
6	千年 俊一	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
7	山本 都江	看護師	看護部長
8	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
9	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
10	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	川口 巧	医師	消化器内科診療部長
12	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
13	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
14	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
15	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
16	水落 建輝	医師	小児科診療部長
17	須田 憲治	医師	小児科診療部長
18	西小森 隆太	医師	小児科診療部長
19	田上 秀一	医師	放射線科診療部長
20	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
21	内山 雄介	医師	放射線科診療部長
22	淡河 悅代	医師	放射線科診療部長
23	小曾根 基裕	医師	精神神経科診療部長
24	本岡 大道	医師	精神神経科診療部長
25	古賀 浩嗣	医師	皮膚科診療部長
26	藤田 文彦	医師	外科診療部長
27	光岡 正浩	医師	外科診療部長
28	田山 栄基	医師	外科診療部長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバーネーム	職種	役職（部署名）
29	唐 宇飛	医師	外科診療部長
30	久下 亨	医師	外科診療部長
31	石橋 生哉	医師	外科診療部長
32	加治 建	医師	小児外科診療部長
33	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
34	廣畠 優	医師	脳神経外科診療部長
35	中村 英夫	医師	脳神経外科診療部長
36	津田 尚武	医師	婦人科診療部長
37	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
38	平岡 弘二	医師	整形外科診療部長
39	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
40	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
41	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
42	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
43	門田 遊	医師	眼科診療部長
44	春田 雅俊	医師	眼科診療部長
45	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
46	深水 亜子	医師	総合健診センター
47	草野 弘宣	医師	病理部長
48	内藤 嘉紀	医師	臨床検査部長
49	内野 俊郎	医師	臨床研修センター長
50	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
51	横山 晋二	医師	医療安全管理部長
52	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
53	牛島 高介	医師	保険診療管理部長
54	野村 健次	事務	病院事務部長
55	竹田津 英稔	医師	消化器病センター長
56	田山 栄基	医師	循環器病センター

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 無)
 - ・ 公表の方法
大学内ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
 - (2) 病院長は、久留米大学医学部附属病院長等選考内規に基づき選出し、理事長が選任する。
 - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の了承を得るものとする。
 - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
 - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
 - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副院長：病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 病院長特別補佐：病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 各種委員会の委員長等の就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営の一端を担うことができており、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
・監査委員会の開催状況：年2回	
直近2回	
令和7年1月29日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催	
令和7年7月18日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催	
・活動の主な内容：	
産業大学病院から4名（医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士）、医療を受ける者1名を委員として実施	
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）	
・委員名簿の公表の有無（有・無）	
・委員の選定理由の公表の有無（有・無）	
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）	
・公表の方法：	
ホームページで公表	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付 す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
原 幸治	産業医科大学 病院	○	医療安全の知識 を持つ医師	有・無	1
手島 康徳	産業医科大学 病院		医療安全の知識 を持つ看護師	有・無	1
豊嶋 健輔	産業医科大学 病院		医療安全の知識 を持つ薬剤師	有・無	1
高橋 一久	産業医科大学 病院		医療安全の知識 を持つ臨床工学 技士	有・無	1
小川 節子			医療を受ける者	有・無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人久留米大学内部監査室を設置している。

内部監査規程に基づき活動を行っている。

- ・専門部署の設置の有無（ 有 無）
- ・内部規程の整備の有無（ 有 無）
- ・内部規程の公表の有無（ 有 無）
- ・公表の方法
大学内ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況			
<p>病院の管理運営に関する重要事項を監督する委員会として、理事長の下に「久留米大学病院経営企画委員会」を設置している。委員には法人理事も含まれており、病院の管理運営に関する事項、稼働状況に関する事項、事業計画に関する事項等について審議している。</p>			
<ul style="list-style-type: none">会議体の実施状況（年6回）会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>・無）（年6回）会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）公表の方法			
大学内ホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）・通報件数（年0件）・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無）・周知の方法<ul style="list-style-type: none">院内通知および医療安全管理マニュアルへ掲載年度当初の医療安全管理対策委員会にて内部監査室長による説明

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none">・情報発信の方法、内容等の概要 <p>クリニカルインディケーター（CI）を久留米大学病院のホームページに掲載</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none">・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 <p>消化器病センター（消化器内科、消化器外科）、循環器病センター（心臓血管内科、心臓血管外科）、呼吸器病センター（呼吸器内科、呼吸器外科）を外来部門に設置している。</p> <p>また、キャンサーボードを開催し、がん治療の診療方針の検討等を行っている。</p>	